

極  
秘

南洋視察ニ關スル報告 (丙號)

6-0008

0304

南洋視察録(丙號)

大正十年三月二十日

重光參事官  
郡司事務官  
提出

6-0008

0305

大正十三年三月二十日

海軍省  
軍務課  
出

南洋視察ニ關スル報告（丙號）

南洋視察ニ關スル報告

目次

丙號

北太平洋帝國委任統治諸島視察録

緒言

第一、「サオバン」島

一、守備隊長及民政署長談話要領

二、「ネレゴリオ・サフラン」談話要領

第三、「ロダ」島警吏並島民學校教師談話要領

第二、「トラツタ」島

一、野崎防備隊司令官談話要領……………	二五
二、堀口海軍事務官(民政部長代理)談話要領……………	二六
三、「チャルメラアイアシ」談話要領……………	二八
四、乾海軍技官談話要領……………	二二
五、高橋民政署長談話要領……………	二三
六、モルトロツク島……………	二四
七、クサイ島……………	二六
八、向坂民政支署長談話要領……………	二七
九、コレレ島會長談話要領……………	二八
十、外人米國宣教師ノ狀態……………	二八
十一、ヤルト島……………	二九
十二、南實會社原二郎氏談話要領……………	三一
十三、民政署長談話要領……………	三三
十四、各會長ノ希望……………	三三
十五、守備隊長ノ意見……………	三四
十六、宣教師「ミナモト」談話要領……………	三九
十七、「マシエロ」島……………	四七
十八、「ウオツゼ」島田中警吏談話要領……………	四八
十九、「ブラウン」島……………	五三
二十、「ボカベ」島……………	五四
二十一、奥山民政署長談話要領……………	五五
二十二、田中宣教師談話要領……………	五九
二十三、岡田島民學校長談話要領……………	六〇
二十四、「ヘシリー」島……………	六〇



第十一、「トラップ」島(歸航).....	七〇
一、山口宣教師談話要領.....	七〇
二、野戦防備隊司令官談話要領.....	七一
三、森森謀長談話要領.....	七三
四、南貿會社員及同支店長談話要領.....	七五
第十二、「オレアイ」島南貿分店員土井氏談話要領.....	七五
第十三、「ウルチ」島南貿分店員正岡氏談話要領.....	七六
第十四、「ヤン」島.....	七八
一、民政署長百武氏談話要領.....	七九
二、守備隊長談話要領.....	八〇
第十五、「カラオ」島.....	八二
一、民政署長談話要領.....	八二
二、守備隊長談話要領.....	八四
第十六、「アンガツル」島.....	八七

三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

南洋諸島旅行表 (八丈島ニハ寄港セズ距離算)  
出ノ爲記載セシモノナリ

重光参事官  
郡司事務官

月日	發着地名	距離	距離延數
大正十年一月十六日	横須賀	一四〇	一四〇
一月十八日	八丈島	三九二	五三二
一月十九日	小笠原父島	七四五	一二七七
一月廿二日	小笠原父島	三八二	一三六五
一月廿三日	サイパン島	八八	一三六五
一月廿六日	サイパン島	八八	一二五〇
二月二日	トラタ島	一九六	二四四六
二月三日	モルトロク島	五五六	三〇二二
二月六日	クササ島	四九四	三五〇六
二月九日	ヤルイ島	一六七	三六七三
二月十二日	マシエロ島	一八九	三八六二
二月十三日	ウヂ島	二〇三	四〇六五
二月十五日	ロンダラ島	四二	四一〇七
二月十七日	ブラウン島	三三五	四四四二
二月十九日	ボナベ島	三九六	四八三八
二月廿一日	トラタ島	三九二	五、三〇
二月廿七日	オレアイ島	五六六	五、七九六
三月二日	ウシ島	三三三	六、一九
三月四日	ウシ島	一二六	六、四四
三月五日	ヤッ島	三九八	六、六四三
三月六日	バラオ島	六〇	六、七〇三
三月十日	アンガウル島	一、四二〇	八、二三三
三月十六日	高雄港		

一、日數合計 六十一日  
一、寄港地數 十九ヶ所  
一、全航程 八千一百二十三哩  
一、略圖 別紙ノ通り

大正十年一月十五日	横須賀	南航小笠原	見港ヲ經テ「マリアナ」群島ヲ視、我	一六六	二、四四六
南洋ノ首都東「カロリン」群島中ノ「トラツク」島ニ着セシハ	八八五	二、二五〇			
一月二十六日ナリ、二月初旬更ニ東「カロ	八八	一、三六五			
リン」島ニ着、二月九日「マリーシャル」群島ノ首都「ヤルト」ニ着、紀元節ヲ奉祝シテ十一日	八八	一、二五五			
出帆、「マリーシャル」諸島ヲ見、再々東「カロリン」島ヲ經テ二月二十三日「トラツ	八八	一、二五五			
ク」島ニ歸着、燃料ノ準備ヲ終リテ二月二十七日愈々西航ノ途ニ緒キ、西「カロリン」諸島ヲ巡遊シ、海	八八	一、二五五			
底電信問題ニテ有名ナル「ヤツツ」島、防備隊司令部ヲ移スヘキ「バラオ」島、南洋ノ寶庫「アングラ	八八	一、二五五			
ル」嶺嶺經營等ノ觀察ヲ終リテ北航三月十六日未明臺灣ノ南端高雄港ニ到着タルコトヲ得、茲ニ南	八八	一、二五五			
洋ノ觀察ヲ終ル、航海日數六十一日、連日八千一百二十三哩、其ノ數妙カラサルニ非ルモ東西二千	八八	一、二五五			
哩、南北五百哩ノ洋上ニ數在タル多敷ノ水泡的諸島ノ觀察ナレハ上陸時間モ極メテ短時間ニシテ	八八	一、二五五			

# 南洋視察ニ關スル報告

(丙號) 赤道以北太平洋帝國委任統治諸島視察録

軍艦春日ニ便乗シ、大正十年一月十五日横須賀發、南航小笠原「見港ヲ經テ「マリアナ」群島ヲ視、我南洋ノ首都東「カロリン」群島中ノ「トラツク」島ニ着セシハ一月二十六日ナリ、二月初旬更ニ東「カロリン」島ニ着、二月九日「マリーシャル」群島ノ首都「ヤルト」ニ着、紀元節ヲ奉祝シテ十一日出帆、「マリーシャル」諸島ヲ見、再々東「カロリン」島ヲ經テ二月二十三日「トラツク」島ニ歸着、燃料ノ準備ヲ終リテ二月二十七日愈々西航ノ途ニ緒キ、西「カロリン」諸島ヲ巡遊シ、海底電信問題ニテ有名ナル「ヤツツ」島、防備隊司令部ヲ移スヘキ「バラオ」島、南洋ノ寶庫「アングラ」嶺嶺經營等ノ觀察ヲ終リテ北航三月十六日未明臺灣ノ南端高雄港ニ到着タルコトヲ得、茲ニ南洋ノ觀察ヲ終ル、航海日數六十一日、連日八千一百二十三哩、其ノ數妙カラサルニ非ルモ東西二千哩、南北五百哩ノ洋上ニ數在タル多敷ノ水泡的諸島ノ觀察ナレハ上陸時間モ極メテ短時間ニシテ

或ハ單ニ數十分ニテ終リシ箇所モアリ、素ヨリ満足ナル徹底的調査ヲ試ムルノ暇ナカリシモ、其ノ短時日ノ間ニ於テ特ニ統治上ノ諸問題ニ關シ見聞セシ所、事實ノ儘ニ要録シテ參考資料トナス、多方面ヨリノ聽取事項ハ時トシテ重複ノ事項ナキニ非ラサルモ參考トシテ其ノ儘ニ錄載ス、聽取ノ方面ハ民政署側、守備隊側ハ勿論、南洋在住ノ宣教師、日本商人、外國人ノ所見ヲモ徵シ尙島民側ノ代表的意見ヲ知ラシコトヲ力メタリ

## 第一、「サイパン」(Saipan, Saipan, San Jose)

### 地理的概説

- 一、所 屬 「マリアナ」群島ニ屬ス
- 二、位 置 北緯 一五度五分 一五度十七分  
東經 一四度四〇分 一四度四六分
- 三、距 離 我横須賀ヨリ約一二三〇哩
- 四、地 勢 火山島ニシテ山岳多シ
- 五、住 民 「チャモロ」族並「カナカ」族(「カロリン」族)

六、人 口 約五、〇〇〇

七、行 政 舊獨逸支配廳アリ、現ニ我民政署並守備隊ヲ置ク

八、主 要 産 物 「コブラ」、砂糖

小笠原二見港ヨリ南航シテ二月二十二日着、同二十三日出港、上陸時間約五時間

一、守備隊長 香宗我部大尉、民政署長事務取扱根岸海軍書記生等ニ就キ聽取ス、主トシテ民政署ニ就キ聽取セシ所左ノ通

### (一) 統治ノ方法

現今ノ制度ヲ改メ、純然タル民政ヲ施行スルコトハ民政署側一致ノ希望ニテ實ハ最近南洋廳等ノ案新聞紙ニ現ハレ其ノ實現ヲ堯望シ居ル次第ナリ、島民「チャモロ」族及「カナカ」族ヲ合算スルモ數ニ於テ内地人ト大差ナク、而カモ彼等ハ溫良、柔順何等不穩ノ行爲アルヲ認メズ、從テ武力ヲ以テ統治スルノ必要ナキ而已ナラス守備隊ノ存置ハ不知ノ間ニ暴力ヲ以テ島民ニ莊ミ易ク、又道德上好シカラサル事實ヲ誘致シ、島民統治ニ最モ大ナル故障ト謂ハサルヘカラス、

守備隊の存置ハ統治上ヨリ見ル時ハ何等必要ナシ

(二) 島民の財産、生活状態等

島民の財産特ニ不動産ハ彼等ノ自由ニ買取ルコトヲ禁シ保護ノ途ヲ講シ居レリ、酒類ノ販賣ハ禁止セラル居ルモ元來島民ハ酒類ヲ好ムコト著シク、元來勞働ヲ忌ム島民ニ對シ勞役ノ對價トシテ酒ヲ與ヘシコトナキニ非ス、此邊幾分手加減ヲ要スヘシ、賦役ヲ課スル時ハ一日僅カニ六十錢ノ勞銀ヲ給ス、民間側ハ勞働者ノ缺乏ヨリ食糧附一日一圓位ノ勞銀ヲ與フル由ナリ

(三) 外國人關係

外國人關係ナシ、本島ハ砂糖ヲ産シ主トシテ西村會社ニ於テ經營シ、其他有利ノ事業ハ總テ内地人ノ注意スル所ニシテ將來共外國人企業ノ餘地ナカルヘシ

(四) 外國宣教師

外國宣教師ノ渡來ハ一般島民ノ渴望シ居ル所ナリ、特ニ「チャムロ」族ハ文明ノ程度比較的高ク、其ノ風俗、習慣全然舊教的ニシテ宗教上ノ禮拜ヲ以テ至上ノ希望トシ、冠婚葬祭皆寺院ニ於テ

之ヲ行ヒ、宣教師ナキハ彼等ノ最モ苦痛トナル所ナリ

(五) 交通

本島内地間ノ定期交通ハ約一ヶ月一回ナルモ之ガ増加ノ必要アリ、米領「グアム」トノ交通ハ全然絶エテ行ハレズ、元來「チャムロ」族ハ「グアム」ヲ本據トシ、「サイパン」ニ千ノ「チャムロ」ハ「グアム」ニ「ヤムロ」族ニ萬數千アリトテ以テ其ノ墳墓ノ地トカシ、親戚關係ヲ有スルモノ多シ、故ニ「グアム」トノ交通ハ彼等ニホリテハ極メテ重大ナリ、故ニ島民ガ豫メ「グアム」官憲ノ上陸許可證ヲ添ヘテ出願スル時ハ民政署ハ「グアム」渡航許可證ヲ下附シ居レリ、(書式ハ別冊參考資料ノ第三ノ「三」)「グアム」ヨリ來ル者ナキヨリ見レハ「グアム」官憲ハ「グアム」人ノ日本領渡航ヲ許サルモノハ如シ

(六) 民政署側ノ希望

特ニ民政署側ノ希望トシテハ(1)前述ノ軍政撤廢、行政組織ノ改革、守備隊ノ撤退、(2)砂糖ノ日本輸入税免除、「サイパン」唯一ノ産業タル砂糖生産ノ獎勵ニハ是非共此ノ特典ヲ要ス、(3)交通

機關即チ寄航船ノ増加之ナリ

二、尙島民「グレゴリ、サフラン」ナル者アリ、「チャムロ」族ニシテ青島獨逸「ギムナジウム」ヲ卒業シ、通譯ヲ勤メ居タルカ日本占領後島民學校助教トシテ傭ハレ居レリ、獨逸語ヲ能クス、其ノ談話ニヨレハ島民側ノ希望トシテハ

- (一) 速カニ宣教師ヲ迎ヘテ宗教上ノ禮拜ヲ營ミ度キコト
  - (二) 「ジラム」トノ交通ハ「チャムロ」族ノ熱望スル所ナルモ、日本占領後交通絶エ、又現ニ出ス願ルモ「ジラム」官憲ノ許可書ヲ添付シ、其ノ上民政署ハ「トラツク」中央部ノ指令ヲ俟ツノ例ニテ結局半年ヤ一年ハ手續ノ爲メニ空費スル有様ニシテ、其間親族病人ノ見舞ノ如キ間ニ合ハヌコトアリ、依テ「ジラム」渡航ノ手續ヲ簡易ニ願度シ
  - (三) 島民ノ勞働ニ對シ出來得レハ相當ノ報酬ヲ以テ報ヒラレ度シ
- 云々ト説明セリ

要之ニ「サイベン」島ニ於ケル他島トノ特殊事情ハ左ノ二點ナルヘシ

- (一) 砂糖栽培等ノ爲、多數日本人移住シ其ノ勢力遙カニ島民ヲ壓シ、アリ、從テ溫順ナル島民ノ統治ヨリモ寧ロ日本人、朝鮮人ノ統治ニ於テ困難ヲ感スルニ至ルヘシ
- (二) 本島ニハ「チャムロ」族多ク、從テ「チャムロ」ノ本據タル「ジラム」トノ交通問題ハ特ニ注意ヲ要スル點ナリ、「ジラム」トノ交通ヲ自由ニスルハ「チャムロ」統治上極メテ都合ナルモ是レハ寧ロ米國トノ交渉問題タルノ性質ヲ有スヘシ

第三、「ロタ」島 (Bota, Luta, Sarpana, Santa, Ana)

地理的概説

- 一、所 屬 「マリアナ」群島ニ屬ス
- 二、位 置 北緯 一四度七分三〇秒  
東經 一四五度一三分
- 三、面 積 二一四方基米
- 四、距 離 我横須賀ヨリ「サイパン」經由、一三六五哩
- 五、地 勢 風 土 南方ニ突端ヲ有スル不等邊四角形島ニシテ玄武岩及其ノ風化物タル

赤色粘土及珊瑚石灰より成り、二百五十乃至三百米突ノ山岳あり、  
七月より十一月ニ至ル間雨量多ク爲メニ植物繁茂旺盛ナリ  
主トシテ「チャムロ」族  
七、人 日 七〇九人  
八、行 政 「サイバン」民政署管區ニ屬ス  
九、主タル産物 「コブラ」其ノ他多少鹿、豚、鳩、椰子蟹等ノ生息スルコト他島ト異ナル所ナリ

一月二十三日午後着、漂泊ス、上陸二時間

本島駐在警吏並島民學校教師ニ面談ス

本島ハ「サイバン」民政署ヨリ警吏一名(家族アリ)ヲ派シテ統治ス、島民學校アリテ教師一名(家族アリ)之ヲ主管ス

一、教會 島民ハ全部「チャムロ」族ニシテ善良溫順、宗教心(カトリック)強ク、二十三日ハ恰モ日

曜日ゾヨトテ教會ヨリ多數ノ信者出テ來ルヲ見タリ、男女共相當ノ服裝ヲナシ、特ニ女子ハ頸飾ヲトシテ十字架ヲ掛クルモノ多シ、宣教師ナキモ「ホーゼ」ト稱スル島民教會ヲ管理シ禮拜ヲ行フ、同人ハ幾分獨逸語ヲ解ス、西班牙宣教師來島ノコトヲ聞キ稍失望ノ色アリ、蓋西班牙時代ニ於テ西國宣教師ハ獨逸宣教師ト異リ、萬事無秩序ニシテ特ニ島女ニ對スル道德ニ缺點アリシヲ以テナリ、教會ハ村落ノ首腦部ニ在リ、内部モ整頓シ歐洲南端ノ風俗ニ似タリ、宣教師ノ住宅ニハ島民學校教員假寓ス

二、産業 産業トシテ西村會社日本人六十名餘ヲ使用シ、村落ヨリ西北二里餘ノ所ニ棉花栽培ヲ試ミ居ル由ナリ

三、本島ハ「グアム」ヲ離ル四十哩ノ地點ニアリテ「グアム」ヲ除キ「マツアナ」群島ノ最南端ナリト云フ

第三、「ムラング」(Truk, Ruk, Ruku, Hoglu, Hogolen, Oia)  
地理的概説  
二六所 屬 東カロン群島

二、位 置 北緯 六度五七分—七度四一分  
東經 一五一度三二分—一五二度四分

三、面積 一三三平方基米

四、距 離 我橫須賀「ダイバシ」等ヲ經テ二、二五〇哩

五、地 勢 風 土 玄武岩島ヨリ成リ數多ノ山岳アリ、島ノ周圍ニ直徑三十乃至三十五

海里ノ大珊瑚環礁ヲ有ス、環礁内ニ約二十箇ノ島嶼ヲ算ス、之等ヲ

六、住 民 「カナカ」族ニ屬ス

七、人 口 一五、三八五人

八、行 政 現在我民政署並守備隊本部アリ、而シテ臨時南洋群島防備隊司令部

九、產 物 主タル產物ハ「コブラ」ノミ

二月二十六日着(往航)七日間滞在、二月二日出發東航

二月二十三日着(復航)四日間滞在、二月二十七日出發西航

一、二月二十九日、野崎防備隊司令官ノ談話要領

堀口民政部長代理、森參謀長、海軍側出張者安藤大佐同席

(本談話ノ要領ハ先ツ司令官ヨリ是非本官(重光)ニ大要説明シ度シトテ談ヲ起シ質問應答セルモノナリ)

(一) 日本占領前ニ雖モ日本人ハ不尠冒險的ニ南洋貿易ニ從事シ、既ニ西班牙領時代ヨリ帆船ヲ操リ、遠ク南洋ニ出テ土人ノ好ム雜貨等ヲ以テ「コブラ」及鼈甲ト交換シ、之ヲ積ミ歸リテ巨利ヲ博シ居タルモノニシテ南洋貿易ハ極メテ有利ナルコトハ爲メニ莫然世間ニ流布セラルルニ至レリ、之等ノ冒險的貿易ニ從事セシハ現在ノ南洋貿易會社ノ前身等ノ如キ、即チ之ニシテ其ノ他ノ個人モ亦不尠、則チ「コブラ」群島水曜島ノ森小辨氏ノ如キハ世人ノ克ク記憶スル所ナリ、明治十七年ニ於テハ「ヤルード」島附近ノ離島ニ於テ日本帆船乗組員全部土人ノ爲メニ殺戮セラレタリ、是ハ後、英船某ヲ發見スル所トナリ、(海中ニアル味噌樽等ニヨリテ事件判明ス)同船ハ横



濱若々上右の旨ヲ政府ニ報告セリ、我政府ハ後藤竹次郎ナルモノヲシテ右英船ニ便乗セシメ、  
問罪ノ使ヲ果タサシメタルコトアリ

(二) 如斯ニシテ南洋ノ冒險的貿易ノ利益ヲ夢ミ居ル者ハ日本占領後直ニ殺到シ來リ、以テ種々  
ノ利權獲得ニ努メタリ、或ハ椰子樹ヲ栽培シテ「ゴブラ」ヲ得ントシ、又ハ「マンダロープ」ヨリ  
「タニン」ヲ製セントシ、或ハ「ボナベ」ノ「カラオ」樹ヨリ纖維ヲ製セント云ヒ、共ニ一獲千金ヲ夢  
ミサルモノナク、而シテ占領軍司令部ハ群島ノ將來所屬如何ニ不拘、成ルベク日本ノ利益ヲ植  
エ付ケ置クコト得策ト思考シ、出來得ル丈、新事業ヲ獎勵シ許可シタルニヨリ、茲ニ新會社ハ  
俄カニ其ノ數ヲ増シ來リ特ニ「カラオ」ニ關シテハ「カラオ」纖維會社並ニ拓殖會社ノ二會社立處  
ニ興リ、「ボナベ」全山ヲ兩分スルノ有様トナレリ

然ルニ之等企業家ハ今日ニ於テハ全然失敗ニ終レリ、其ノ原因ハ第一、材料ニ關スル研究不完全  
ナリシコト、例之、椰子樹ノ如キ鹽分アル海岸地ハ成長速カナルモ山頂等ハ極メテ成長遅々タル  
コトヲ知ラザリシコト、「カラオ」纖維ノ如キ其皮ヲ積ミ出シ、「マニラ」纖維ノ機械ニ掛クルモ

纖維縱横ニ錯綜シテ一旦纖維ヲ縱纖維ニ直スノ必要アリ、依テ到底經費ハサレカ如キ、甞  
甲ノ如キモ土人ノ藏品ハ殆ント採リ盡サレ、新獵ハ極メテ少キコト等尤モ著シキ例ナリトス、第  
二、事業ヲ經營スルノ要目タル勞力ニ付テ智識ナカリシコト、南洋ノ勞働ハ日本人ニテハ到底  
永續スヘキニアラス、土人ヲ使用スルコト最モ有利ナリ、然ルニ土人ノ勞力ヲ得ルコトハ極メ  
テ困難ノ業ニシテ到底充分需用ヲ充スコト能ハス、且日本人ヲ交替使用スルハ餘リニ勞働ノ價  
値高價ニ過ク、茲ニ於テ結局收支相償ハサルコトトナル、要スルニ研究調査ノ足ラサルコト失  
敗ノ最大原因ナリ、現在ニ於テハ經濟界ノ動搖ト共ニ南洋ノ事業家ハ悉ク失敗ヲ招キ、現存ノ  
南洋貿易會社スラ甚シキ悲境ニ陥リ居レリ

(三) 事業トシテハ「アンガウル」島ノ燐礦ト「サイパン」島ノ砂糖(西村商會經營)ノ見込アル外、  
棉花其ノ他ノ試作中ニ屬スルモノアルモ望ミ確實ナルモノナシ

(四) 前記ノ如ク失敗ヲ招キシ事業家ハ最近總合シテ南洋群島全部ニ對スル總括的利權ヲ得テ一  
會社ノ下ニ經營センドテ出願中ナリ

(五) 土民ニ對スル政策ニ關シテハ種々ノ説アリ、例ヘハ將來朝鮮問題ノ如キコトヲ未然ニ防ク爲メ、寧ロ抑壓的ニ教育ヲ施ササルヲ宜シトスヘシトノ説アルモ、土民ノ勢力ヲ利用スルコト南洋開發ノ第一事業タルヲ想ヒハ、土民ニ相當ノ欲望ヲ起サシムル式ケノ教育ハ之ヲ要スヘシ、即チ土民ニ對シテハ寧ロ保護的ノ政策ヲ採ルヲ可トスヘシ

(六) 交通問題ハ重大ナリ、「アンガウル」燐礦運搬用ノ船舶ハ往航「マニラ」ニ寄港シ、「マニラ」行荷物ヲ積載スルヲ以テ辛ウシテ「マニラ」迄空船タルヲ免レ得ルモ、「マニラ」ヨリ「アンガウル」迄ハ船腹ヲ利用シ能ハサル状態ナリ、若シ燐礦運搬ト群島間ノ航運ヲ調節シ得ハ多大ノ利益ナルヘシ、(特別ノ船型ヲ考案スルモ可ナラン)

(七) 宗教問題ハ特ニ困難ナル事項ナリ、宣教師ニ對スル財産引渡シハ如キ必スシモ容易ナラス現ニ「ボナベ」ノ如キ宣教師ノ住宅ヲ民政署ニ於テ利用シ居レリ又「バラオ」ニ於テハ現ハ獨特ノ神ヲ崇拜シ居リ、舊教ノ如キ極メテ少數ナルニヨリ宣教師配當ノ必要ナカルヘシ

(八) 行政部ノ所在地 將來ノ民政本部所在地ニ關シテハ「バラオ」ニ司令部ト共ニ配置スルモ可ナラン、只土地稍狭少ナリ、本件ニ關シテ左ノ如ク種々ノ説アリ

「サイパン」説、「サイパン」ハ用水、港灣等ニ關シ不便多シ、該島ハ日本内地ニ接近シ得ルヲ以テ中央政府置カストモ發達シ得ル位置ニ在ルヲ以テ「サイパン」ヲ首都トスルハ不得策ト思考ス、(堀口事務官ハ「サイパン」ハ將來最モ發達スヘク日本人多ク從テ問題繁多ナリ、故ニ此處ヲ以テ適當トス、水モナリ、港灣ノ設備必スシモ困難ナラス)

「ボナベ」説、「ボナベ」ヲ首都トスルハ地位用水等ヨリ見ルモ寧ロ有力ナル説ト云フヘシ

「バラオ」説、「バラオ」ハ地位偏ズルカ如キモ表南洋羣島方面ノ關係ニ想到シ大觀スル時ハ中央部ニ位スト見ルコトヲ得サルニ非ラス

(九) 外國人ヲ入ルルコトハ出來得ル限り防止シ度、特ニ舊獨人ヲ許スコト(最近伯林大使館ニテ證明ヲ與ヘ「サイパン」ニ歸リタルモノ二人アリ)ハ以テ外ノコトナレハ成ルヘク外國人ノ入國ヲ許ササル方針ヲ採ラレタシ

(十) 民政費ハ人頭税、營業税、移出入税其ノ他南洋ニ於ケル收入合計二十萬圓乃至二十五萬圓ヲ以テ支辨シ居ル有様ナレハ充分ノ施設ハ素ヨリ之ヲ望ムヘカラス、官吏ノ如キ一年一回ノ休暇ヲ與フルコトヲ要シ、又官吏其ノ人ヲ得ルコト困難ノ業ニシテ、要スルニ南洋ニ對スル政府ノ根本的政策ヲ樹立ヲ要ス

(十一) 司令官ノ談話ノ外將來統治ノ組織ニ付意見ヲ叩キタルニ別ニ具體的ノモノナシ、其他南洋關係ノ諸問題ニ付キ質問ニ應ジ本官ヨリ説明シ置ケリ

## 二、堀口海軍事務官ノ談話要領(其ノ一)

### (一) 統治ノ組織

速カニ軍政ヲ撤廢シテ文治ヲ敷クコト文官全部ノ希望ナリ

(1) 從來島民ニ對シテモ規律ヲ強制シ、其ノ結果不知ノ間ニ壓迫ノ風ヲ成シ、帶劍ヲ以テ威壓スルヲ外觀ヲ呈ス

(2) 文武官ノ折合思ハシカラス、司令部側武官ハ常ニ海軍部内ノ文官のナル主計官其ノ他

文官ニ對スルト同様ノ態度ヲ民政官ニモ及ボス、是又不知々々ノ間ニ習慣的ニ文官ヲ壓シ、民政ニ關スルコト殊ニ人事關係ニ付テハ多ク民政官ニ圖ラス、獨斷ニテ事ヲ決シ、而シテ愈々面白カラサル結果ヲ生シタル時ハ之ヲ民政官ニ押シ付クル如キコト普通一般ナリ、何事モ一律軍隊的ニ爲ス爲民政官各個ノ能力ヲ發揮シテ手腕ヲ揮フコト能ハス、自然事務ノ濫用ヲ來ス、經理會計モ民政官ハ常ニ不利益ノ地位ニ置カル、從テ人員ノ配置等無益ノコト多ク、官吏ノ事務ハ牧民行政ヨリモ寧ロ軍人文官間ノ繁文褥禮の事務ニ没頭スル有様ナリ

### (二) 財産保護

土人ノ不動産買收ヲ禁シ居リ、財産ノ保護ハ充分ニ行ハレ居レリ

火酒ノ賣買ハ行ハレ居ラス、酒ハ會長等祝宴ノ場合ニハ幾分之ヲ與フトコトナリ、土民ノ福祉及發達ニ對シテハ大體學校教育ヲ重ナル機關トシ、其風俗ノ改善モ幾分見ルヘキモノアルカ如シ

### (三) 外人渡航

外國人ノ渡航ニ對シテハ何等ノ制限ナクシテ差支ナシ、却テ南太平洋トノ連絡ヲ圖ルコトヲ得  
ム更モ可ナルヘシ

外國人ノ通商航海ニ關シテハ何等ノ制限ヲ要セス、實際外國人ヲ爲メニ甚シク侵略セラルルカ  
如キコトナカルヘク、又如此見ルヘキ產物モナキ遠隔ノ島嶼ニ多額ノ費用ヲ願ミス來ツテ企業  
ヲ開始スル者モナカルヘシ、若シ出願スル者アラハ之ヲ許可シテ何等差支ナカルヘシ、但南太  
平洋ニ於テ邦人カ受クル制限ト同様ノ制限ハ何時ニテモ之ヲ行施シ得ルノ權利ハ拋棄スルコト  
ヲ得ス

III Charles Irons (Sony Natsushima, Truck, East Caroline, N.P. Trader of Native Produce) トノ  
會談(一月三十一日)

同人ハ英國生レニシテ十三歳ノ時 emancipation ship ニテ濠洲ニ渡リ、三十歳ノ時三百噸位ノ帆  
船ニテ「ドラック」島ニ來リハ爾來同地ニ居住シ主トシテ「コブラ」商ニ從事シ、雜貨ヲ仕入レテ土  
民ニ供給ス、島女ヲ娶リテ子女既ニ五六人ヲ得、長女ハ支那人ト土人トノ混血兒ヲ養子トナシ、

共同生活ヲ營ミ孫若干ヲ有ス、年ニ一回位商用ノ爲日本ニ赴ク

(夏島ノ白井、Irons、冬島ノ Peter、水曜島ノ森ノ如キ内地人、外國人ハ島民間ニ勢力ヲ有シ  
其家族ハ皆土民トノ間ニ生レタルモノナリ、而シテ之等ノ結婚ハ土民ト行ハス、彼等仲間同士  
間ニ行ヒ殆ント一ノ貴族社會ヲ形成ス、白井ノ妻ハ森ノ子、森ノ長男ノ妻ハ Peter ノ子ノ如シ)

Irons ノ談話要領

(一) 日本統治ノ下ニ於テ別ニ不滿ヲ抱クヘキ謂レナキモ、昔時ト今日トノ變遷ニ付テハ特ニ  
今昔ノ感ニ堪ヘサルモノナリ、自分等ハ Peter 森、白井等ト共ニ西班牙領時代ヨリ事業ニ着  
手シ、極メテ安樂ニ群島間ヲ活動シ、「コブラ」貿易ニ從事シ、土民ニ雜貨ヲ安價ニ供給シ居タ  
リ、獨逸時代トナルモ此ノ狀態ハ何等變更ナキノミナラス、更ニ事業ノ發展ヲ見、如斯シテ家  
族モ出來、何等ノ不自由ナカリシカ日本ノ占領後 naval administration トナリ、物價一躍二倍  
三倍トナリ、土民ニ對スル「シヤツ」其ノ他ノ供給ハ餘リニ材料高キ爲不可能トナリ、常ニ子  
女ノ手ニヨリ動キツアリシ三臺ノ「ミジン」モ今ハ殆ント用ヒサルニ至レリ、而已ナラス主ト

シテ「コブラ」ヲ業トスル會社ハ、南會社、南貿易社其ノ他兩後ノ竹子ノ如ク、競争激甚其ノ極互ニ相傷付ク狀態ナリ、今ハ南貿易社「ツトナリタルカ、南貿易社ノヤリ方モ昔獨逸人ノ造リ方トハ全ク異リ、多數ノ店員群集シ、徒ニ煙草ヲ吹カシ茶ヲ喫シテ日ヲ送ルカ如ク、「コブラ」ノ賣込ニ行クモ事撈取ラス、終日ヲ費スノ有様ニテ又彼等ヨリ品物ヲ買フ時ハ法外ノ高價ナルニヨリ、自分ハ可成自分ノ家ノ前ニ來ル「スクーナー」ニ供給シ、安價輕便ニ物貨ヲ交換シツツアリシカ是レモ最近ハ來航ヲ止メタリ

要之ニ too many traders ニシテ「コブラ」業ハ財界ノ不況ト相俟テ幾分盛ミ少ナカラシモ物價騰貴ハ世界的トハ云ヒ乍ラ、當地ノ現象ハ稍法外ナルヘシ、土民共ハ近來 naval administration カ「バラオ」ニ移轉シ civil administration トナルニ付、前記ノ事態モ變更スルナルヘシ云々ト豫想シ居レリ

自分ト島民トノ間ニ出來タル家族ハ外國人トシテ年二十圓ノ人頭税ヲ徴收セラレ居レリ、是素ヨリ日本人モ同様ニシテ何等不平ナキモ彼等ハ深洲人ニモ英國人ニモアラサルナリ

(南洋ニテハ概シテ女權強ク土民トノ子ハ風彩皮膚、態度、習慣殆ト土民ニ近シ、而已ナラス絶海ノ孤島ニ於ケル住民ニ對シテハ極端ニ屬人主義ヲ貫徹スルハ如何カト思ハル、但日本人ノ父ノ子ハ日本人トスルモ不都合ナカラン)

(二) 談話中 Irons ノ養子ナル者歸リ來リ、落チ付カサル態度ニテ連リニ土語ヲ以テ何ヤラ談スルニ付、強イテ問ヒタルニ Irons ハ左ノ通り説明セリ

今水兵(防備隊ニ屬ス)二三近隣ニ來リ土人ニ鶏ヲ與ヘヨトノ請求ナリシモ承諾セサルニヨリ、遂ニ自ラ之ヲ捕ヘ、尙若シ民政署ニ訴フルカ如キコトアラハ承知セストテ棒ニテ振打シテ去リタリ、カカルコトハ今ニ初マリタルコトニ非ラス、占領當時ハ殊ニ甚シカリキ、水兵ハ恣ニ來リ「コトコナツツ」、「バインナツブル」、「バナナ」等未熟ノモノニテモ之ヲ擗ミ折リ、食用ニ堪ヘサルヲ知ルヤ附近ニ投棄シ、未タ成長シ居ラサル食料樹ヲ勝手ニ折斷シ、恰モ之等カ島民間ノ死活問題タル食料品タルヲ想起シ居ラサルモノノ如シ、

將校ハ流石ニ之等暴行ヲ默視セス、特ニ松村艦隊入港ノ際水兵誤テ食用樹ヲ折リタルヤ特ニ司

令官ハ大ニ之ヲ戒メラレタリ、又余ニ酒類等ヲ與ヘラレタル士官モ、勢カラサリシメ、要之、水兵カ士民ニ對スル暴行ハ尋常ノコトニシテ近來ハ之レテモ寛和サレタル方ナリ、自分ハ晝間ハ日本官憲ニ對シ敬意ヲ表シ、士民ニモ之ヲ教フルモ夜間十時頃突然ノ來訪ニ至リテハ之ヲ拒絕セサルヲ得ス、(是レ水兵カ夜間所謂島民婦女ノ襲撃ニ來レルヲ指スコト後ニテ判明セリ、其ノ婦女タル素ヨリ未婚者タルト既婚者タルトヲ問ハス)

#### 四、「トラツク」民政部乾海軍技官談話要領(一月三十日)

我南洋ノ產物トシテハ「コブラ」、燐礦並ニ砂糖ニシテ他ニ何等見ルヘキモノナシ、「コブラ」ハ年額約六十萬圓ヲ產出シ、燐礦ハ二百萬圓、砂糖ハ最近「サイパン」島ニ栽培ヲ始メタルモノニシテ仲々有望ナリ、目下同島ニ於テ約七百町歩ヲ開墾シテ之ニ栽培シ居ルモ、近ク二千町歩ノ植付ヲ見ルニ至ルヘシ

以上三種以外ハ殆んど見ヘキモノナシ、從テ産業上大ナル發展ハ之ヲ期スヘカラス、從來南洋貿易ニ手ヲ染メタル者多キモ、競爭者多ク結局皆破産シ、最後ニ獨占ノ狀態ニ戻ルヲ

#### 常トス

#### 五、「トラツク」民政署長高橋牛太郎ノ教會堂並ニ宣教師住宅等ニ關スル談話要領(二月二十九日)

「トラツク」民政署管内ニハ現今教會堂附屬住宅三ヶ所アリ、内一ヶ所ハ高橋署長ノ官舎ニ充テ居ルモ、他ノ二ヶ所ハ荒廢ノ儘ニ放置セリ、サレハ今同班西牙ヨリ宣教師來島ストスレハ早速教會堂並住宅ノ修理ニ取リカカラサルヘカラス、又什器類ハ總テ各自ノ所有ニ屬スルヲ以テ舊獨逸宣教師ハ其ノ退島ノ折ニ悉ク其ノ所有家具類ヲ處分シ去リタルヲ以テ、現ニ在存シ居ルモノハ勿論皆無カリ、教會堂並住宅ノ修繕費ハ一ヶ所約五千圓位ト見積リ、三ヶ所約一萬五千圓ヲ要スヘク、之ニ要スル材料並勞力ハ悉ク之ヲ内地ニ需メサルヘカラス關係上、約五六ヶ月ノ日子ヲ費スニアラサレハ完成ヲ期スル能ハス、事情如何ナルヲ以テ早速工事ニ着手ストスルモ六、七月頃ニケラサレハ宣教師ヲ收容スル能ハサルモ、若シ彼等ニシテ多少ノ不便ヲ忍ビ、一ヶ所ニ三人位雜居スルノ覺悟アラハ全然居住ノ途ナキニシモアラサルヘシ

目下高橋署長ノ住宅ニ充テ居ル教會附屬ノ宿舍ハ宣教師來島ノ節ハ、勿論早速之ヲ開ケ渡スヘキ

モ、該住宅ニ取り附ケタル家具類ハ民政署ニ屬スルモノ若クハ高橋氏自身ノ所有ニ屬スルモノナ  
レハ、之等ハ住宅開ク渡シト同時ニ取り去ルヘキハ勿論ナリ、尙教會並ニ住宅ノ荒廢ハ單ニ當「ト  
ラック」管内ノミニアラヌ、各島共同様ノ有様ナルヘシ、但シ「ヤル」トハ比較的荒廢セス、居  
住ニ耐ユルヲ以テ若シ宣教師カ近ク來島ノ運ニ至ルコトアラハ、一時彼等ヲ悉ク該所ニ收容シ、  
各所ノ修理完竣次第漸次配置スルモ亦一方法ナラン  
次ニ家具類中尤モ困難ヲ感スルハ南洋生活ニ於テ缺クヘカラサル水槽(タンク)ニシテ、之ハ他ノ  
物品ト異リ右ヨリ左ニ購ヒ得ヘキニアラス、大體内地ニ注文セサルヘカラス、然モ之ナクテハ南洋  
ノ生活ハ一日モナス能ハヌ、價ハ二三「百圓」以上ナルヘシ  
次ニ目下管理中ノ獨逸人財産中收益財産皆無ナル爲、其ノ收益ヲ以テ家具類ヲ調製スルノ手段ナ  
シ

第四、「モルトロツク」(Morlock)

地理的概説

- |           |  |
|-----------|--|
| 一、所 屬     | 東「カロリン」群島  |
| 二、位 置     | 北緯 五度<br>東經 一五四度<br>「モルトロツク」ヨリ一九六海里、横須賀ヨリ「トラック」經由二、四四六<br>海里 |
| 三、距 離     | 低平ナル珊瑚環礁ニシテ海洋的氣候   |
| 四、地 勢 風 土 | 「カナカ」族   |
| 五、住 民     | 二百人未滿  |
| 六、人 口     | 「ゴブラ」  |
| 七、産 物     |  |

十二月三日着、上陸數十分

本島ハ純然タル珊瑚環礁ヲ形作り、島民百數十、昨年十二月十五日大暴風アリ、海水陸地ヲ襲ヒ島  
民ハ陸地ノ稍高キ所ニ避難シ幸ウシテ水死ノ難ヲ免レタリ、侵水ハ高地ト雖モ尙二尺餘リアリタリ  
ト「モルトナリ」、暴風ヲ爲メニ「ゴブラ」ハ當分望ナシ、南洋貿易會社出張所員不在、島民亦克ク談話

ヲ交換シ得ル者ヲシ  
第五「クサイ」島(Kusaie, Kuseie, Kussai, Kussin, Gaiang Wang, ...)

地理的概説

- 一、所 屬 東「カロリン」群島(最東方)
- 二、位 置 北緯 五度一分—五度三分  
東經 一六二度五八分—一六三度六分
- 三、面 積 一一〇平方基米
- 四、距 離 横須賀ヨリ「トラツク」ハ「ホタル」ト「グック」經由、三、〇一二海里
- 五、地 勢 風 土 長八哩、幅六哩ノ島、周圍ニ線礁ヲ有ス、島ノ形状ハ多丘性ニシテ  
中部ニ山岳多シ
- 六、住 民 「ガナカ」族、但他島ニ比シ文化最モ發達ス
- 七、人 口 七六〇人

八、行 政

「ガナカ」民政署支署アリ

九、産 物

二月六日着、上陸約四時間  
本島ハ火山島ニシテ周圍ニ線礁あり、最高地ハ約二千尺ナリ、海ハ良港ナルモ稍狹隘ヲ感ス、  
主地概テ肥沃、果實ノ外牛豚類ヲ輸出ス、米國宣教師モ此地ヲ選ヒテ學校ヲ建設シ、主トシテ「マ  
ーシャル」島民ヲ集メテ教化ニ従事ス

島民ハ性溫良ニシテ克ク政令ニ服ス、西部諸島ヨリ優良ノ地位ニ居ル、  
行政區ハ「ガナカ」民政署ノ管區ニ屬シ守備隊ヲシテ民政支署モ支署長三名アリ(向坂海軍書記生)

一〇、民政支署長ノ談

(イ) 島民統治ニ何等ノ困難ナシ

(ロ) 外國人ニ別ニ何等不都合ナシモ宣教師ハ矢張り米國カ日本ヨリモ強大ナリ、印象ヲ島民

ニ與フルモノアリ、蓋シ止ムヲ得サルモノナリ、一國ニ宣教師ハ宣教師ニ異ナリ、異ニ宣教師



(ハ) 從來ノ習慣ニヨリ「ナウル」磷礦會社ヨリ毎年一同十名位ノ勞働者ノ募集アリ、現ニ渡航中ノ者三十四五アリ、島民ハ幾分之ヲ歡迎スルノ傾向アリモ右渡航ハ風儀上甚タ面白カラサル影響ヲ齎シ且渡航島民ハ一錢ノ貯蓄モナク歸來スルヲ常トス、此種出稼ハ考エ物ナリ

二、「レレ」島酋長ヲ往訪 同酋長ハ日本觀光團ニ加ハリ渡日セルコトアリ、妻ハ「ナウル」人ニシテ同島ニ妻ノ財産アリトノコト、尙同酋長ハ「クサイ」米國宣教師ノ學校ニテ教育ヲ受ケ英語ヲ巧ミニシ島民間ニ相當ノ勢力ヲ有シ、十四人ノ子女ヲ有ス、同酋長ハ銃獵ヲ許サレ度旨切望セル外別ニ參考トナルヘキ談話ナカリキ

三、外人トシテハ

(1) 米國宣教師 Borden 姉妹本島ニ規模少ナラサル學校(ボーディング・スクール)ヲ經營シ島民ニ對シ偉大ナル感化ヲ與フ、米國宣教師ハ東部南洋ニ於テ島民ニ對シ精神上隱然タル勢力ヲ有ス、上陸時間短少ナリシ爲往訪スルコトヲ得サリキ

(2) 米人 Melander ハ「コブラ」業ヲ營ミ資財三十萬圓ト稱スルモ椰子樹林ノ見積リ過當ニ失ス

セリナキカ、年齡八十ニ近ク老衰ノ域ニ在リ甥、Henshaw (三十歳位) 弟ヲ伴ヒ最近米國ヨリ歸リ來リ同居シ、椰子樹ノ栽培ニ從事ス、「メラシダ」ノ死後ハ「ヘルマン」兄弟永ク留マルヤハ疑問トセラル

同人等ト會談ノ結果別ニ參考トナルヘキコトナシ

四、島民學校アリ、生徒約二百名

五、南洋貿易會社支店並圖南會社支店アリ

第六、「ヤルト」島 (Jaluit, Jalut, Yalut, Dschalut, Scheidj, Benham)

地理的概説

- 一、所 屬 「マーシャル」群島
- 二、位 置 北緯 五度四八分一六度一八分  
東經 一六九度二二分一六九度四二分
- 三、面 積 九〇平方基米
- 四、距 離 横濱ヨリ直航ニ、四四五海里、「マリアナ」、東「カロリン」ヲ經由ス

0325

6-0008

五、地勢風土  
低平ナル珊瑚環礁ニシテ環礁ノ面積實ニ一、三五〇平方基米ニ及フ  
六、住民  
「ミシロネシヤ」族  
七、人口  
九、九〇〇人  
八、行政  
舊獨時代ニハ「ボナベ」政廳ニ屬スル「ヤル」ト「支政廳」存セリ、現在  
我民政署並守備隊アリ  
九、産業  
物産「コブラ」  
二月九日正午着、二月十一日午後三時半出發  
「ヤル」中「島」ハ「ミシロネシヤ」群島ノ首島ニシテ純然タル環礁ナリ、棧橋、倉庫等規模廣大ナリ、社宅  
多ク皆管理財産トシテ民政部ノ使用スル所ナリ、「コブラ」ノ集落地ナリ  
島民文化ノ程度底カラ、我南洋中「サモア」ノ「チャムロ」ヲ除キ或ハ其ノ程度最も高キガ如シ、  
二月九日、守備隊本部、民政署、病院其ノ他ヲ歴訪シ、休憩所タル南洋貿易會社支店ニ至ル、偶々  
支店長原田氏來島中ナリ、同氏ハ數十年南洋貿易ニ關係シ、今回南洋ニ失敗セル四商會社ヲ合  
併シ川崎銀行ニ合併新計畫ヲ行テ爲事業整理上渡航セルモノナリ、同氏ハ南洋ニ對シテ  
一、依テ同氏ノ意見ヲ叩ク  
(一) 主民ノ教育ヲ初メ其ノ他ニ付民政部官憲ノ態度施政ヲ非難ス  
(二) 日本人ノ習慣惡シク島民ニ對シテ威嚴ヲ失墜スルコト多キヲ指摘セリ  
(三) 南洋司令部カ南洋ニ於ケル企業ヲ一時ニ多數許可シ爲メニ共倒レトナリ、其ノ結果日本人  
ノ島民ニ對スル威信失墜トナリ、種々ノ弊害ヲ來スコトノ愚策ナルヲ精論ス  
(四) 遠洲「Hanks」會社(資本金約二千萬圓)ヲ現ニ「ヤル」群島ニ於テ所謂船舶貿易  
ヲ營ミ居リ、島民ノ信用ヲ博シ、南貨會社ノ強大ナル競争者タリ、其ノ船舶中一隻坐礁シテ現  
在ハ一隻ノミナルヲ其ノ補充トシテ尙一隻ノ船舶貿易ヲ出願中ナルニ、トラツク民政部之  
ヲ許可スルニ至ラザツヤ其ノ許可書ヲ同會社ニ交附セザル前ニ南貨會社ハ之カ取消方ヲ民政部  
ニ申出テタル趣ナリ

二、二月十日民政署長代理談話要領

三二

- (一) 守備隊ハ全然必要ナシ、其ノ存在ハ寧ろ食糧及日用品運搬ニ影響シ不便少カラス、而已ナ  
ラス島民ニ對スル風儀ニ至大ナル關係アリ、一日モ速ニ撤退シ純然タル民政ヲ施スヲ肅肝要  
ナリ
- (二) 民政部ノ經理ハ之ヲ民政部ニ於テ行フコト致度、蓋經理ハ今日守備隊ノ主計官ニ於テ取  
扱ヒ民政署ニ對シ極メテ不當ノ經理ヲ行ヒ、進シテ雇人ノ如キ人事關係ニモ容喙スルニ至ル
- (三) 守備隊ニ於テ民政ニ干渉シ諸事困難多シ
- (四) 通信機關ノ如キ全然守備隊ノ手中ニ在リテ守備隊長ノ必要ト認ムル通信ニ非レハ行ハレス  
又彼等カ民政署ノ事情ヲ知ラス爲メニ取扱ヲ誤ルコト不尠、現ニ「トラック」ニ送ルヘキ電信ヲ  
在東京民政部長ニ送りシコトアリ

(五) 電信等機密ノ事項モ守備隊ノ下級職員ノ取扱ニ係ルヲ以テ機密ハ容易ニ島民ニ漏レ困難多  
シ、現ニ軍艦「春日」ノ來航ノコトハ民政署ヨリモ先ニ島民ニ之ヲ聞知セリ

(六) 又米國新聞記者「ウッド」來島ノ時モ主トシテ守備隊長ノ應接アリテ民政署ノ方ハ餘リ關係  
ナキ有様ナリ

以上ノ外希望トシテ

- (一) 警吏ヲ増員シテ之ヲ各島ニ配置シ置クコト必要ナリ、現在ハ僅ニ二人ノミ離島ニ在リ
- (二) 「マーシャル」群島ニ民政署用巡邏艦一隻ヲ置キテ連絡ヲトリ統治ノ便ニ供シ度シ
- (三) 裁判手續ヲ簡單ニ致度、内地様ノモノトセシ、土地ニ應シ適宜ノ措置ヲ採リ得ルコト獨  
逸時代ノ如ク極メテ簡便ヲ旨トシ度
- (四) 在南洋官吏ノ待遇問題ヲ考量セラレ度キコト
- (五) 無線電信ヲ遞信省又ハ民政部ノ所管ニ改メタキコト
- 三、同群島酋長七八名三月十日民政署ニ集合セテ、其ノ際會見シテ日本官憲ニ對スル希望如何ヲ  
質問シタルニ對シ
- (一) 椰子實ノ買上代價ヲ一斤八錢ナルヲ一斤十二錢ニ値上ケセラレ度(以前十二錢五厘ナリシ

三三

0326

6-0008

(コトアリ) 買上げ所、第八回ヤリ。一貫ノ銀ニ當ルモノヲ賣(是國主二親王則ヤリ  
三〇三年前(大正十年四月満期トナル)當時ソ軍政官憲タル守備隊長ヨリ發セラレタル(司令官  
時ハ其ノ土地ヲ沒收スルシテ本會長ニ對スル命令ニ對シ、一會長ハ右期限ヲ延期シ貰ヒ度キ旨  
申出ツ、民政署長代理ハ之ニ對シ「右ハ篤ト其ノ植エ付不能ノ理由ヲ審査シテ決官スヘク、何レ  
引キ續キ開カルベキ會長會議ニテ協議スヘシ」ト説明ヲ與ヘタリ爾後ハ諸般事情ナド有義識  
若會長ノ要求ニ關シ土地下「ゴブラ」(食糧)下ハ彼等島民最モ重要視スル所ニシテ宗教ト共ニ  
其ノ取扱ハ島政上特ニ重要視セサルベカラサルラ感ゼリ

四「ヤルート」守備隊長ノ意見

四、「ヤルト」守備隊長ノ意見

キ（本意見ハ守備隊長ヨリ春日搭乗吉田第二遣外艦隊司令官ニ提出セルモノナリ其ノ儘之ヲ寫ス）

甲、守備隊存置問題

守備隊存置問題 駐台日軍之駐紮地點，經全港各界之反對，現已決定將駐紮地點移至基隆，並由基隆派兵駐紮各要點，以資防範。

將來存置スルノ必要ヲ認メス

(理由) 酒精を蒸留せしむるに於て、  
アルコールは水より先に蒸発するからである。

(二) 一朝事アルモ交通機關不備ナル現状ニ於テハ島外ニ出ツルヲ得ス

(二) 占領以來守備隊ヲ是非共必要トスルカ如キ事變生セシコトナシ、例ヘ守備隊ナクトモ反旗

ヲ翻スヘキ如キ氣慨ナシ

(三) 隊員が勞苦大ニシテ多クハ輕度ノ神經衰弱ニ罹レリ、是レ軍人ガ民政部官吏ニ比シ格勤ナルニ原因ナル處方カラテハ其豫備應ニシテ又急遽對面等ヲ主トシテ其預備官ニシテ其患ヲ

乙、守備隊ヲ存置スルナラバ左ノ諸項ヲ顧慮スルヲ要ス。即チ甲中ニ指シ示ス外並同ニテ八百里ニ及

(一) 守備隊ト民政署トヲ全然獨立セシムルヲ要ス

理由三 鐵路之設立，固為交通之便，而對於國家之利益，尤有重大之影響。蓋鐵路之設立，不僅可促進商業之發達，且可加強國防之力量。故政府對於鐵路之建設，應予以高度之重視，並應採取積極之措施，以促進其發展。

目下守備隊ヲ民政署ニ共ニ海軍ノ管轄ニシテ司令官ノ指揮ヲ受ケ居レリ、而シテ守備隊ハ絕對服從ヲ旨ニシ格勤ナルニ反シ、民政署側ニ於テハ司令部ノ命令ヲ尊重セス（例ヘバ司令部ニテ

勤務時間ヲ令示セルニ拘ハラズ之ニ服従セサルカ如キ)而モ守備隊ニテ之ヲ監督スル機能ナ  
キヲ以テ部下ヲ有スル隊長トシテ甚心苦シク感ス  
故ニ同一指揮者ノ下ニ此ノ二者ヲ對立セシムルコトナク各獨立セシムルヲ可トス

(二) 守備隊ト民政署ト經理ノ獨立ヲ必要トス

守備隊員ノ宿舍ハ管理財産ニシテ其ハ管理權ハ民政署ノ手中ニ在リ故ニ民政側ニテハ自由ニ之  
ヲ選擇シ守備隊員ノ宿舍ハ甚敷劣惡ニシテ又之カ修理費等モ主トシテ民政側宿舍ニノミ充用シ  
又農夫、漁夫等ヲ使役シテ得タル食料品モ民政側ニノミ配給スル狀態ナリ  
(三) 守備隊員ノ在勤期間ヲ短縮スルコト

特別ナル地勢ナルヲ以テ何等慰安ノ途ナクハ嚴格ニ勤務スルモノハ神經衰弱症等ニ陥リ易シ故

ニ六ヶ月乃至八ヶ月ヲ以テ交代セシムルヲ可トス

四 守備隊ヲ臨時派遣のモノトスルヲ可トス

目下守備隊員ハ役員等ヲ除ケハ七八人ニ過キス故ニ「ボナベ」等ニ比較的大部隊ノ守備隊ヲ常置

シ數ヶ月交代ニテ派遣スル如クスルヲ可トス

丙、忌憚ナキ所見

(一) 民政署員ニ就テ

守備隊員ハ在留邦人ニ對シテ超然タル態度ヲ持スルモ、民政署員ハ内地ノ喧嘩者多ク、南貨會  
社ノ手先ニ使ハレ、年報等ハ凡テ南貨會社店員ノ調査ニヨルモノニシテ從テ諸種ノ意見等モ南  
貨會社ノ意見ト見ルヘキモノ多シ

民政署員ハ女中ト稱シ島民ヲ宿舍ニ引キ入ルル等同シク海軍官吏ニシテ守備隊員ト大ナル差異  
アリ、到底守備隊ト民政署トノ圓滿ナル協調ハ望ムヲ得サルヘシ

前任隊長神通大尉モ民政署ノ放蕩ヲ見ルニ忍ヒスシテ警告ヲ與フルト同時ニ司令部ニ通報セ  
シカ之ヨリ兩者ノ間ノ關係益々圓滿ヲ缺キ遂ニ兩成敗トナレリ

要スルニ軍人ト非軍人トノ差ハ極メテ大ニシテ到底調和シ得ヘカラス

民政署長事務代理ハ元舞鶴經理部ニ勤務セシ書記ナリ、下級ノモノト折合モ宜シカラスト聞



ハ是等米國宣教師ノ最古參ニシテ「ヤルト」島ニ在リテ島民布教ニ從事ス。

○「ミス・ホツピン」ノ談座ニ「Halse」アリ、會見ハ民政署員ノ案内ニテ青山艦隊機關長ハ安富少

佐及余等ナリ、談話ノ要領ヲ摘録スレハ左ノ如シ。

A、自分ハ數十年前帆船ニテ本島ニ漂着セリ、當時ハ島民野蠻ニシテ外來者ハ一切之ヲ殺害セリ、吾人モ將ニ同様ノ運命ニ遭ハントセシモ當時ノ會長ハ義侠ニ富ミ漂着者ヲ殺ス勿レト悟シ遂ニ茲ニ布教ノ根據ヲ得タリ、其ノ後右會長ノ病氣ニ際シ自分ハ極力之ヲ看護シタルモ遂ニ及ハス不歸ノ客トナレリ、臨終ノ際ニ於ケル遺言ニ基キ彼ノ住ミタル家ヲ使用シ居ルモノニシテ現ニ島民ト同居シ居ルハ此ノ故ナリ。

米國宣教師ハ幾度カ其ノ人ヲ代ヘタルモ風土、食物、氣候ノ關係ヨリ「クサイ」島ヲ根據トシテ同地ニ學校ヲ設ケ、土人ノ教化ニ力ヲ盡シ土語ニテ學藝ニ關スル教科書ヲ編纂シ「クサイ」島ノ Boarding School ニテ印刷ニ附シテ書籍トナシ、廣ク用ユルニ至レリ、爲メニ殺伐ナル島民モ漸次教化ニ靡キ風體一變シテ性質溫良ト化シ、謀叛心等ハ全然之ナキニ至レリ、男女ノ

關係特ニ其ノ風俗ニ至リテハ實ニ困リタル事項ニシテ之南洋全島ヲ通シテノ缺點ニシテ男女間ニ道德ナシト謂フモ不可ナシ、然レトモ是レモ宗教ソカニテ今日ニ至リテハ大ニ改善セラレ、少クモ表面ニ於テ其ノ效果大ニ顯ハレ、公然不道德ノ談話ヲナス者等ハ之ヲ見サルニ至レリ、又結婚モ寺院ニテ正式ニ舉行スルニ至リ、特ニ「クサイ」島ノ如キ著シク改善ノ跡ヲ示セリ、道德問題ニ付テハ自分モ充分貢獻シ度キ所存ナリ。

B、日本ノ占領當時ヨリ今日ニ至ル迄土民用教科書ハ一切出版ヲ禁セラレ、學校ニ來ル兒童等ニ對シテモ其ノ意ニ反シテ日本島民學校ニ入學ヲ強制セラルル現狀ニシテ（他方面特ニ田中警吏之ヲ肯定ス）而カモ宗教上ノ儀式等ニ關シテ壓迫ヲ受ケタルコト少カラスハカ、ル狀態ニシテ繼續セハ事業モ到底望ミナキニ付、米國本部ニ申告シテ日本人又ハ日本語ヲ解スル宣教師ノ派遣ヲ請フカ、又ハ全然布教ヲ拋棄スルニ如カストモ考フル處、日本ハ何時迄モ如此狀態ヲ繼續セラルル積リナルヤト云ヒ、Halseハ現ニ自分ノ知ル處ニテハ十八歳ノ女子ヲ拉シ之ヲ島民學校寄宿會ニ強制入舍セシメタルニヨリ、自分ハ十五歳以上ハ學校ニ入學セシムル

義務ナシト聞ク、事實如何ト反問シタルニ、「十八歳ニテモ二十歳ニテモ學校ニトルノダ」トフ返答ヲ當時ノ官吏ヨリ得テ當惑セリ、規則ナラハ自分ハ四十歳ニテモ五十歳ニテモ學校ニ送ラルルニ敢テ反對セスト稍激シタル語調ナリ、Hopkinsハ自分ハ前述ノ通り島民ノ道徳ヲ懸念シ、特ニ島民子女ヲ世話スルニ當リ慎重ノ注意ヲ怠ラスハ必ス男女ノ宿舍ヲ嚴然離隔シ特ニ此ノ點ニ最大ノ注意ヲ拂ヒ、漸次教化昂上ニ力メタリ、從テ島民モ自分ヲ見ルコト慈母ノ如クスル所謂ナル處、日本學校ニ於テハ設備欄ヲ不完全ナルニ不拘、半強制的ニ遠近ノ島民ヲ集メ而モ成籍セル多數ノ男女ヲ收容シ、教室ヲ寄宿舎ニ當テ室ヲ隣リテ男女全部百數十人起臥ス、永年來ノ自分ノ經驗ニヨルニ如此シテ道徳ノ破壊者ヲ出サハラント欲スルモ能ハス、現任教員ニ至リテ稍改善セラレタルカ如キモ前述ノ困難ハ同一ナリ、問ニ對シ「自分ハ多クノ例證ヲ與フルコトヲ得、現ニ妊娠セル女學生モ數多アリ」(他ヨリ聞ク所ニヨルモ前校長時代ニハ此點極メテ惡シク、守備隊、民政署ノ部員等學校ニテ會飲シ、亂暴狼藉ノ行爲ニ及ビ、遂ニハ女生徒ヲ弄ヒタルコトアリ)而カモ日

本學校ニテハ僅カノ日本語ヲ修得スルノミニテ一般的智識例之數字ノ如キ殆ント得ル所ナキニヨリ、父兄ハ宣教師ト子女ヲ託スルコトヲ懸望シ、殊ニ女子ヲ日本學校ニ送ルコトヲ恐怖シ之ヲ嫌フテ自分ニ訴フルモノ多キモ、自分ハ直接民政署ニ訴フヘク勸ムルヲ常トス、而カモ日本官吏ハ女子ヲ學校ニ送ラサレハ直ニ獄屋ニ投スト答フルヲ以テ島民ノ官憲ニ對スル恐怖心極度ニ達ス、本官ハ右ニ對シ、軍事占領ノ狀態ヲ繼續セル間ハ總テ異常ノ行政ヲ行フコト、各國共通ノコトニテ檢閲等ノ爲自然教科書出版ニモ不便アリシコト疑ナキモ、今後、愈委任統治ノ行政實現スレハ萬事都合ニ運フヘシ、又小學校ノ經營モ日淺タ、占領行政ノ今日充分ノコトハ出來ス、然レトモ之モ出來得ル丈改善シ非難少キヲ期スルハ官憲ノ真意ナルコト疑ナシ、之等ノ點ハ宣教師側ニ於テモ充分好意ヲ以テ官憲ヲ援助セラレ度シ、又官憲ノ處置ニ關シ快カラサハ點テテハ遠慮ナク完全ナル通譯ヲ以テ署長ニ直接談話スルヲ可トス、誤解ハ最大ノ不幸ナリト詳細ニ説明ス行ヒタル後、日本ハ宗教ト教育トヲ嚴重ニ區別シ、宗教ハ全然自由ニシテ何



人モ自己ノ信スル宗教ノ儀式ニ列スルヲ得ルモ、學校ハ單ニ教育ヲ授クル所ナリ、從テ日本  
官憲カ島民ニ日本語ヲ教ヘ學校ニ一定ノ兒童(現在ニテハ十二歳ヨリ三年)ヲ收容スルハ何等  
異義ナカルベシト思フ云々タルニ、

Hopkins ハ南洋ニテハ宗教ト教育トヲ左迄區別シ得スハ、特ニ從來ハ關係上宗教ニヨリテ教化  
シタルモノナルニヨリ、島民ヨリ見レバ此間何等ノ區別ナシ、現ニ日曜日ニハ學校ニテ或ハ速  
針等アリ、寺院ノ禮拜ニハ怖ヲナシテ小供ノ一存ニテハ來ラス、宣教師ノ學校ヲ禁シテ日本ノ  
學校教育ヲ強制スル時ニハ數年後ニハ宣教師ノ爲スヘキ所ナキニ至ラン、而カモ日本教育ノ  
現狀ヨリ見ル時ハ島民ノ將來大ニ寒心スヘキモノアルヘシ

本官ハ一日曜ノ如キ時間ノ「アレシメント」ハ如何様トモ官憲ト話附ケ得ベシト思ハル、寺  
院ト雖モ終日禮拜ヲ行フ次第ニテモアルマシト述ベタルニ、

Heine ハ承認セルカ如キモ、Hopkins ハ仲々斯ク容易ニハ行カスト嘆聲ヲ漏シ居タリ

C、島民ニ對スル命令ハ絶對的ナルヘキモ例ヘハ祝日、又ハ艦隊ノ歡迎、爲メ島民ノ婦女ヲ驅

リ出シ見苦シキ踊ヲ行ハシムルカ如キハ如何ト思ハル、妊娠中ノ女、踊ヲ強制セラレ即夜流  
産ノ結果ヲ見タルコトアリ云々

D、要之自分ハ官憲ニ對シ尊敬ヲ拂ヒ、且共助メ精神ニ富ムモ好意ヲ以テ何カ申出ツレハ官憲  
ノ爲メニ耶喻又ハ怒號セラレ、爲メニ萬事消極的態度ヲ持シ居ル次第ナリ、「ウオツセ」島ニ駐  
在セル田中警吏ハ人格優レ英語モ解リ、同氏「ヤルト」島在任中ハ極メテ好都合ナリシ(島民  
モ日本人側モ同警吏ヲ尊敬ストノコトヲ他ヨリ聞ケリ)而カモ島民ハ官憲ヲ恐ルルコト極端  
ニシテ何等ノ發言ヲ敢テセス、皆自分ノ所ニ訴ヘ來ルヲ以テ甚シク困難ノ立場ニ在リ

E、本官ハ日曜日ノ勞働ヲ忌ムノ風習アルモ、如何ナル國モ必要ノ勞働ハ日曜ト雖モ之ヲナサ  
ル處ナシト云ヒタルニ、Hopkins ハ自分ハ日曜日ハ勞働スルモ然ラサルモ全然之ヲ島民各  
個ノ自由意思タルヘキ旨ヲ悟シ、何等其ノ是非ヲ謂ヒタルコトナシト説明ス(日曜日ニ勞働  
ノ習慣ナク、荷物ノ積卸等ニ不便ヲ感シ「トラツク島」等ニテハ時トシテ勞働ヲ強制ス)

翌十二日紀元節ノ儀式アリ、陸上ニ土人ノ踊リ等ノ餘興アリ、約束ニヨリ Miss Hopkins ヲ往訪

其ノ談話要領

四六

A、昨日ノ御話ニヨルニ日本官憲ハ教育ト宗教トヲ全然區別シテアリト御説明ナリ候モ、學校教科書ニテハ天皇陛下ハ神ナリトアリ、之ヲ宗教ナリト思フ、基督教徒ノ島民ヨリ見レバ甚シク迷フ所ナリト云ヘルニ付、本官ハ日本ノ家族制度ヨリ來レル關係ニ於テ陛下ヲ神トシテ尊敬スルナリ、宗教ニハ非ス、寧ロ語ノ「アヤ」ナリ、故ニ日本ニハ陛下ヲ神ノ如ク尊敬シナカラ基督教徒モ佛教徒モ其ノ他ノ宗教モ共ニ「Respect」シ行クヲ見ル、而シテ程度底キ島民ニ對シテハイサ、カ不審ノ點モアラシ、之等ハ過渡的行政時代トテ日本内地ノ威念ヲ其ノ儘探リ來リタルハ止ムヲ得サルモ今後ハ克ク研究スヘキ點ナラン

ト答ヘ置ケリ

B、昨日ハ民政署員御同行ニ付差控ヘタルモ、日本官憲ノ道德ニ付テハ誠ニ困難ナリ、島民ノ婦女子ヲ同居セシムルモノ數多ク、病院長ノ如キモ日本内地ニ家族アリト聞クモ當地ニテ一島女ト同様シ子供ヲモ有シ居レリ、其ノ他民政署平野某ノ如キ夜一時頃民家ヲ夜襲シ、現ニ拙宅

ノ戸ニ迄來リ自分ノ顔ヲ見テ去リタリ、其ノ他自分ノ監督下ニ在ル附近ノ土民住宅ニ夜襲ヲ試ミル者不尠、之等ヲ民政署ニ届出ツレバ「カルボ」(獄屋)投入ノ返報ヲ受クルヲ以テ島民

ハ官憲ヲ恐怖シテ何等ノ申出ヲナサズ

C、米國新聞記者「ウッド」來島ノ時ハ税關吏金子某ノ如キ自分ニ幾分強迫カマシキ態度ヲトリ不愉快ニ感ヒタリ

第七、「マジロ」島 (Majuro)

地理的概説

- 一、所 屬 馬紹爾群島 (馬紹ル群島)
- 二、位 置 北緯 六度九分 (大略)  
東經 一七一度
- 三、面 積 狹小
- 四、距 離 「ヤル」トヨリ東北ニ一六七海里
- 五、地 勢 南方ニ長サ五十基米ノ島ヲ成シ、北部ハ多數ノ小島ニ分裂ス、環礁

四七

0333

6-0008

- 六、住 民 「ミクロネシア」族
- 七、人 口 約二百
- 八、産 物 主タルモノヲ「ゴブラ」トス

二月十二日着、上陸一時間(但郡司事務官ノミ上陸)

本島ニハ從來南洋貿易會社ノ出張所アリシモ現今ハ之ヲ閉鎖ス、本環礁ハ内湖廣ク過般ノ戰爭中獨艦「シャルンホルスト」、「グナイゼナウ」カ運送船ヲ率ヒテ入り來リ射撃演習ヲ行ヒタル由ナリ

第八、「ウオツジエ」島 (Wofje, Wofja, Oidia, Runanzow)

地理的概説

- 一、所 在 地 環礁ノ「ミクロネシア」群島
- 二、位 置 北緯 八度五五分―九度三五分  
東經 一六九度四分―一七〇度二分
- 三、面 積 環礁ノ東西三十哩、南北十哩ニ互リ六十五個ノ小島ヨリ成レトモ陸

地ノ面積ハ狭少ナリ、環礁ノ内湖ハ廣ク過般ノ戰爭中獨艦「シャルンホルスト」、「グナイゼナウ」カ運送船ヲ率ヒテ入り來リ射撃演習ヲ行ヒタル由ナリ

- 四、距 離 「ミクロネシア」群島ノ北西方一八九海里

五、地 勢 低平ナル珊瑚環礁ヲナス、環礁ノ内湖ハ廣ク過般ノ戰爭中獨艦「シャルンホルスト」、「グナイゼナウ」カ運送船ヲ率ヒテ入り來リ射撃演習ヲ行ヒタル由ナリ

- 六、住 民 「ミクロネシア」族

七、人 口 百數十

- 八、産 物 「ゴブラ」以外見ルヘキモノナシ

二月十三日着、一時間上陸

本島ハ海軍側カ將來「ミクロネシア」群島ノ首島トシテ選ビタルモノニシテ概ニ無線電信所ノ如キ工事著シク進捗セリ、「シャルンホルスト」島ヨリ田中警吏派出シ居レリ、同警吏ハ南洋ニ經驗長ク最モ信用アル官吏ナリ、其ノ談話要領左ノ如シ

- (一)「シャルンホルスト」根拠地ヲ「ウオツジエ」ニ移轉スルニ決シタル理由トシテハ、(一)環礁ノ内湖廣ク過般ノ戰爭中獨艦「シャルンホルスト」、「グナイゼナウ」カ運送船ヲ率ヒテ入り來リ射撃演習ヲ行ヒタル由ナリ

B、土地稍廣ク且大風アリシ記録ナシ

C、群島ノ中央部ニ在ル結果會長ヲ召集スルニ便利ナリト云フニ歸着ス、右ニ對シ田中警吏ノ質問ニ應答スル所ハ

(1) 土地幾分か廣キハ事實ナルモ「マーシャル」群島ハ北方ニ進ムニ從ヒ雨量少ク、從テ椰子實ノ產額減シ來リ、天産ノ利便ハ決シテ増加セス、暴風ニ付テモ必スシモ保障アルニ非ス

(2) 會長ハ多ク天産物ニ富ム「ヤルト」附近ノ島々ニ居住スルニ付、且貿易風ノ利用多キ爲「ヤルト」ニ集合スルコト便利ナリ、地理上中央部ニ在リト云フノミニテハ當テニナラスト思考ス

(3) 「ヤルト」ハ獨領時代ニ於テハ「ヤルト」會社ノ所在地ニシテ機橋並家屋等規模廣大ノ設備アリ、爲メニ同島ニ於テハ何等ノ不便ヲ感セサルニ今之ヲ拋棄シテ「ウオツゼ」ニ新ニ設備ヲナスハ其ノ費用ヲ徒ラニ費スノミナラス、生産上ノ關係上到底人爲的ニ全然「ヤルト」

引揚ヲ許サ、ルヘク、商社等ハ經費ノ關係上依然トシテ「ヤルト」ニ於テ經營セラルベキニ付行政廳例ニ稅關其ノ他ノ如キ依然「ヤルト」ニ殘サ、ルベカラズ、故ニ不經濟ナル行政費ヲ要スル結果トナルベシ

(4) 「ヤルト」ニ於ケル外國商社 Burns Philip ノ如キ益々競争上有利ノ地位ニ立ツヘシ云々、要之「ヤルト」ノ根據地ヲ「ヤルト」ヨリ「ウオツゼ」ニ移轉スルコトハ軍令部ニ於テ主トシテ地理的位置ヨリ計算セル結果ニシテ深ク行政並生産等ノ關係ヲ顧慮セサリシモノ、如クハ何レニスルモ研究ノ足ラサルモノナリ、軍令部同行者モ亦同様ノ意見ナリ、特ニ行政ノ方面ヨリ見テ多量複雜ナル移轉ハ極メテ不利トスベシ

## (二) 宗教ト教育

田中警吏ハ南洋ニ永キ經驗ヲ有シ内外並島民ニ多大ノ信望ヲ蒙リ居ル人ナレハ茲ニ宗教ト教育トノ關係ヲ質問セシニ大體「ヤルト」宣教師ノ言ヲ是認シ外人特ニ宣教師ニ對スル接遇拙劣ニシテ無理ニ其ノ反感ヲ挑發スルカ如キ有様ニシテ言語ノ關係

モアルカ常ニ意思疏通セス、外人ト見レバ猜疑ノ眼ヲ以テ接シ、壓抑的態度ニ出ツルハ事實ニシ  
ラ宗教學校教科書ノ印刷ハ未タ之ヲ許シ居ラス

日本島民學校ノ設備不完全ニシテ島民男女學生間ノ道德ノ如キ甚タ不取締ナルノミナラス校長ノ  
道德ニ付テモ疑問ヲ抱カシムル時代アリタリ

何レニシテモ全然「クリスト」教化セル島民ノ教育ハ日本内地其ノ儘ノ感念ヲ以テハ教育ニ從事シ  
得ス、矢張島民ノ風俗習、慣言、語ヲ重ンジ島民ノ利益ヲ念頭ニ置キテ教育ヲ施サ、レハ其ノ成  
功ハ之ヲ望ミ難シ、現ニ日本ノ學校程島民ノ厄介視シ居ルモノハナカルヘシ

要スルニ教育ハ或程度迄宣教師ニ委任シ宣教師ト調和シツ、進ムコトヲ最モ肝要ナリト信ス

### (三) 守備隊ノ要否ニ關シ田中耆吏ハ曰ク

島民ニ對シテハ守備隊ハ全然不要ナリ、却テ弊害ノ根源ヲナス、占領當時以來守備隊員ノ島民ニ  
對スル抑壓跋扈並其ノ不行跡ハ實ニ言語ニ絶シ、隊長以下島女ヲ姦シ島民ヲ逆遇スルコト甚シク、  
爲メニ島民ハ逃クルニ所ナク、樹木ノ上ニ身ヲ吊シテ夜ヲ明シタルコト屢々ナリ、餘リニ程度進

ミタルニ依リ自分等ハ隊長ノ注意ヲ喚起シタル處、却テ其ノ反感ヲ買ヒ、遂ニ「トラック」司令部  
ノ知ル所トナリ、守備隊長並ニ民政署員ノ交迭ヲ見ルニ至レリ

### 第九、「ブラウン」(Brown Stoll)

#### 地理的概説

- 一、所 屬 「マトシヤル」群島
- 二、位 置 北緯 十一度五分  
東經 百六十二度
- 三、面 積 約百平方基米
- 四、距 離 「ヤルト」ヨリ約九〇〇海里
- 五、地 勢 低平ナル珊瑚礁
- 六、住 民 「ミクロネシヤ」族
- 七、人 口 約一〇〇人
- 八、産 物 椰子、胡椒、芋、バナナ、カカオ、

二月十七日着、同日發、上陸數十分間

南洋貿易會社分店アリ、店員一名絶海ノ孤島ニ年二回ノ南洋貿易會社ノ帆船ニ頼ミテ在任ス、本月ハ帆船ノ來ルヘキ月ナルニ未タ其ノ影ナク、食糧モ次第ニ盡キタレハ其ノ補給ヲ受ケ度シトテ軍艦ヨリ對價支拂ノ上分與ヲ受クルヲ見タリ、島民約百名、「コブラ」年産額五、六十噸ナリ、椰子樹ハ獨逸時ニ栽培セルモノ多數アリ、概シテ「マーシャル」ノ北方諸島ハ雨水少キ爲、椰子樹ノ成長南方(例之「ヤルット」)ニ比シ良好ナラスコノコトナリ

第十、「ボナ」島 (Ponape, Pohnpei, Honepet, Fannupet, Falope, William

IV Insel, Harpet, Quirsa, Ascension Torres.)

地理的概説

- 一、所 屬 東「カロリン」群島
- 二、位 置 北緯 六度四五分一七度  
東經 一五八度一〇分一五八度二五分
- 三、面 積 三四七方基米

四、距 離

「ヤルット」ヨリ約七〇〇海里西方ニ在リ

五、地 勢

中央ノ大玄武岩島ヲ中心トシ數多ノ小島ヨリ成ル、周圍約五十五哩

六、住 民

「ミクロネシア」族

七、人 口

六、九〇〇人(附近ノ島ヲ加フ)

八、産 物

「コブラ」、他ニ果實ヲ産ス

二月十九日午後着、二月二十一日發、上陸滿一晝夜

「ボナ」島ハ周圍約五十哩南洋最大ノ火山島ニシテ最高二千呎以上ノ高山アリ、森林ニ富ミ、「ハバイア」、「バナナ」等ノ果實豐富ナリ、地味比較的肥沃ニシテ人口四千ヲ有シ、文化ノ程度「ヤルット」並ニ「クサイ」島民ト共ニ南洋中最高ノ地位ニ在リ、民政署並守備隊アリ、各方面ヨリ聴取地所左ノ通り

一、民政署長奥山萬次郎氏談話ノ要領

(1) 守備隊ト島民トノ關係

行政上ノ見地ヨリ見ル時ハ守備隊ノ存在ハ有害無益ナリト思ハル、住民ハ獨逸時代ニハ勇敢ナル反抗ヲナシタルコトアルモ今日ニ至リテハ何等其ノ氣概ナキノミナラス、叛亂ノ結果結局屈服ニ終ルヘク且ツ苛酷ナル所刑ヲ受クヘキヲ知り、如何ナルコトアルモ反抗ハ無益ノコトヲ信スルナリ、本來彼等ハ柔順ニシテ克ク政令ニ服スルコト他島民ト何等異ルコトナシ、從テ島民ニ對スル防禦ノ意味ニテハ守備隊ノ必要ナシ

若シ夫レ守備隊ノ島民ニ對スル弊害ニ至リテハ容易ナラサルモノアリ、守備隊員ハ目下約三十名ナルカ島民ニ對シテハ威壓ヲ事トシ、事々ニ所謂鐵拳政策ヲ用ヒ、意ニ充タサル所アレハ直ニ島民ヲ毆打ス、現ニ「春日」入港ノ際島民ヲ擧ケテノ歡迎ニ各會長自ラ指揮シテ果實ヲ「カヌー」ニ滿載シテ「春日」ニ向ヒタル時、「會長ハ公衆ノ面前ニ於テ些細ノ事ノ爲メ水兵ノ鐵拳ヲ喰ヒ多量ノ鼻血ヲ出シ、會長ハ部下ニ對シテモ不面目ナリトテ歡迎ニハ出席セス自宅ニ引籠リタリ、斯ル例ハ連日ノコトニテ、耶蘇信者ノ島民ノコトトテ女尊ノ風習ヲ生シ、女子ハ單ニ默禮スルヲ慣習トスルニ日本水兵ハ之ヲ見テ女ノ頭高シト稱シ直ニ毆打スルコトアリ、又彼等ノ島民女子

ニ對スル行動言語ニ絶スルモノアリ、又夜間點檢後就床ヲ裝ヒテ窓カニ外出シ、島女ヲ夜襲シテ默慾ヲ充スコト多ク、時トシテハ東洋製糖會社ノ女工寄宿舎又ハ島民學校等ヲ襲フコトアリ、或ハ島民ノ嗜好物タル酒類ヲ報酬トシ島女ヲシテ其ノ對價ヲ拂ハシムルコト往々之アリ、而シテ目下懸案中ノ最モ甚シキ實例ハ、「兵員カ酒類ヲ提供シテ晝間一島民ニ島女ノ媒介方ヲ依頼シタルニ、該島民ハ晝間ノ事故島女ノ父ノ面前ヲ憚リ再ヒ夜間ニ來ランコトヲ求メシニ、大ニ憤リ亂暴ノ舉動アリシ後附近ニ居リシ十一、二歳ノ小女ヲ捕ヘ衣ヲ褌ヲマクリ猥褻ナル行爲ニ及ヒシ處、之ヲ見ルニ見兼ねテ制シタル島民ヲ毆打シ、後右水兵ハ同僚ニ對シ事實ヲ偽リ島民ヨリ侮辱ヲ受ケタルコトヲ以テセリ、此事遂ニ守備隊長ノ耳ニ入りタルニ隊長ハ土民ノ侮辱ヲ蒙リ其ノ儘空シク歸ルカ如キ不申妻ナキ者ハ寧ロ腹ヲ切レ、然ラサレハ島民ヲ首ニセテ其ノ言ナリシカ、其ノ後本事件ニ關シ警吏ハ右島民ヲ引致シテ事實ヲ取調ヘ居リシ處、右水兵ハ數名ノ同僚ト共ニ來リ、右島民ヲ「毆クラセヨ」ト警吏ニ請求シ、(水兵等ハ豫メ警吏ニシテ之ニ應セサレハ先ツ警吏ヲ打チ夫ヨリ島民ヲ毆打スル様相談セリトコトナリ)警吏ハ之ヲ默認シ、爲メニ島民ハ

散々ニ亂打ヲ受ケ立ツコトヲ能ハス、其ノ儘今日迄「カルボス」ニ投入セラレタリ、右島民ヲ未決  
ノ儘「カルボス」ニ收容シテ已ニ一ヶ月ニ及フ、本件ハ耳達ナル島民ニ對シテ已ニ響ノ聲ニ應ス  
ルカ如ク全島ニ知レ渡リ、今ヤ島民ハ民政署ノ採決如何ヲ鶴首シテ俟チツ、アリ、事ノ真相ヲ調  
査スルニ右ノ次第ナルモ水兵處罰ハ隊長ヲ應スル所ニアラス、去リトテ島民ヲ免除ハ守備隊ノ  
威嚴ニモ係ルコトトテ右島民カ酒ヲ飲ミシ(之レモ水兵ヨリ貰ヒタルナリ)廉ヲ以テ處罰セルカ  
トモ思ヒ居レリ、又他ノ一例ハ目下當地在住ノ宣教師田中金造ハ女中トシテ島女二名ヲ雇ヒ置  
キシ處、來島早々ノ事トテ從來兵員ノ行爲ヲ知ラス、全ク竊盜ト早呑込シテ兵員ノ女中室侵入ヲ  
咎メタル處早速兵員ノ含ム所トナリ、田中ノ運送荷物ヲ陸揚ノ際、或ハ一度海水ニ浸スカ、或ハ  
醬油樽ニ海水ヲ入レ又ハ味噌樽中ノ味噌ヲ泥ニ換フル等ノ復讐ヲ受ケタルコトアリ、如此狀態  
ナルヲ以テ島民ハ守備隊所在地タル「コロニア」(日本人ノ居ル町)ニ他村ヨリ來ルコトハ非常ニ  
之ヲ恐レ居ル有様ニテ、今回司令官軍艦春日ニ搭乘シテ來島シタル爲、歡迎ノ意味ニテ各村ヨリ  
「コロニア」ニ踊手派遣方ヲ村長ニ命セシニ離島中兵員ノ暴行ヲ恐レテ應セサルモノアリ、漸ク

五八

慰撫シテ連レ來リタル有様ナリ、其ノ他此ノ種ノ行爲ハ數フルニ迫ナキ狀態ニテ島民ノ敢テ反  
抗セサルハ弱者其ノ到底益ナキヲ知レル爲メニシテ、涙ヲ吞ンテ泣寝入スルニ過キス、故ニ多少  
共氣骨アル者ハ來ルヘキ日米戰爭ニハ米國ニ加擔セン等ノ言ヲ口ニスル事モアル由ナリ

## (2) 守備隊ト民政署トノ關係

島民ニ對スル守備隊ノ狀態ハ大體以上ノ通りニテ、民政部員ハ守備隊ニ對シテ何等手ヲ附クル  
ヲ得ス、萬事權力ハ守備隊ノ收ムル所ニシテ萬一其ノ意ニ滿タサル所アレハ直ニ復讐ヲ受ク、前  
任ノ守備隊軍醫長ノ如キ一日水兵數名ヲ率ヒ深夜自分宅へ侵入シ器物ヲ破壊シ亂暴ヲ働キ自分  
ハ身ヲ以テ免レタルコトアリ、水兵ノ如キニ至リテモ學校長、民政署員ニ對シテ「酒ヲ飲マセ  
ヨ」ト強請スル者アリ、之等ノ關係ハ遺憾ノ點多シ

## 二、田中宣教師ノ談話

同宣教師ハ極メテ篤著、其意見ハ穩健、談話參考トナル點多シ、依テ之ヲ書キ物ニ致スレ度キ旨  
請求セルニ「參考資料」ノ部第九ノ(三)ニ載セタル意見書ヲ提出セリ、談話ノ要領ハ右ニテ盡ク

五九

0339

6-0008



其ノ他ハ後出「ナンペイ」ノ談話中ニ時々援用セリ、同官教師ハ兵員ノ舉動等ニ付隊長ニ述フル所アレハ彼ハ多ク夫レ等ノ舉動ハ默認セサレハ統御出來ストカノ返事ヲ得、被治者ノ利益ハ念頭ニナキ様感セラレ、云フモ無益ト思フニ至レリト談話セリ

### 三、「ホナベ」第一島民學校長岡田與助氏談話要領

目下當第一島民學校ハ生徒數男女併セテ百八十名、他村ノ者ハ寄宿舎ニ收容シ、食糧官給ノ制度ナレトモ兒童十名ニ對シ年二百八十圓ナレハ一人一日ノ費用僅カニ八錢ニ過キス、故ニ此ノ費用ノミヲ以テシテハ到底生活不可能ニ付、父兄ハ兒童ノ食糧ヲ送ラサルヘカラス、之多大ノ困難ニシテ入學ヲ喜ハサル一理由ナリ、次ニ女生徒ノ頗ル少ナキハ學校所在地タル「コロニア」(守備隊所在地)ニ女子ヲ送ルハ頗ル危險ナル行爲ニシテ、已ニ男子ニ於テスラ兵員ノ暴行ヲ恐レテ「コロニア」行キヲ喜ハサル狀態ナルニ不拘、女子ヲ唯一人此地ニ送ルカ如キハ之我子女ヲ猛虎ノ餌食ニ供スラストノ感ヲ深カラシメタルニ基ク

兒童ハ割合ニ成績ヨク、内地ト全然同一程度ニテ教育ヲ施シ居レリ、唯彼等ノ最モ不得意トスル

ハ國語(日本語)ナリ、尤モ好ムハ唱歌ナリ

兒童教育ノ方針等ニ付テハ已ニ民政署ニ於テモ充分ノ費用ナキノミナラス、何等確タル主義モナキ有様ニテ余モ成行ニ任セ居ルノミ、萬端ノ事情ヲ異ニスル島民ニ對シ全然日本式ノ教育ヲ施スハ果シテ策ノ得タルモノナルヤ否ヤ云々

### 四、Henry Nanpei ノ談話

同人ハ裏南洋隨一ノ有福者ニシテ島民中最モ教育見識ニ富ム、新教徒ニシテ特ニ談論ニ長ス、資産ハ椰子林等ニシテ約三十萬圓ト稱セラルルモ其ノ見積リハ過大ニ失スルカ如シ、英語ヲ巧ミニスルヲ以テ外人トノ聯絡アリ、殊ニ米人宣教師トハ交通絶エスト推測セラルル節アリ、(「ヤルト」島ノ Miss Hopkins ノ如キ同人ヲ推賞シ是非面會セラレ度ト謂ヒ居レリ)「ウオフゼ」駐在ノ警吏田中氏ノ如キ以前事業家ノ爲遺棄セラレ、暫時「ナンペ」ノ許ニ勞働シ居タルコトアリ、同人ノ智識、勢力ハ素ヨリ會長ノ上ニアリ、隠然島民間ノ頭目タリ

日本ニ對シテハ何等是トイフ反日ノ舉動ナキモ、彼カ全然盲目的服従ヲノミ事トセサル態度ハ時

トシテ英語ヲ解セサル者ノ爲メニ誤解ヲ招クコトアリ、特ニ田中宣教師ノ談ニ依レハ第一次守備隊長飲田大尉ハ島妾三人ヲ有シタルシカ其ノ一人トシテ「ナンベ」ノ女ヲ得ントシ、窃カニ同人ヲ應合ニ招キ、若シ應スレハ萬事好都合ニ取計スヘシ、然ラサレハ復讐ニ遭ハントノ旨ヲ告ケタルニ同人ハ遂ニ之ニ應セス、爾來彼ハ反日的ナリ等謂フ噂多クナレリトノコトナリ、然レトモ彼カ日本人以外ニ對スル信用ニハ何等ノ影響ナキノミナラス、日本人間ニ於テモ彼ヲ信用スル者増加スルニ至レリ、何等反日的態度ノ認ムヘキモノナシ、十九日守備隊應合ニテ會談ノ際統治ニ付キ尋ネタルニ先ツ「極メテ満足シ居リ別ニ謂フヘキコトナシ」ト謂ヒタルニ後考ヘ直シタル形ニテ何レ考ヘタル上致度ト述ヘタルニ付二十日ニ會談ヲ約シタルナリ

田中宣教師ノ談ニヨレハ二十日(日曜日)同教師ニ忌憚ナキコトヲ云フテ可然ヤ否ヤヲ質問セルニ付同教師ハ其可然ヲ報告シタリト云フ

「ナンベ」ニ對シ本官ハ先ツ

「貴下ハ年齢六十以上トノコトナルカ西班牙領時代、獨逸領時代ヲ經テ日本領時代ヲ經驗シ居ル次

第ナリ、貴下ヲ如キ有力者アリテ忌憚ナキ意見ヲ聞クヲ得ルハ極メテ仕合せナリ、西、獨、日ノ三時代中貴下ハ何ノ統治ヲ最善ト思考セラルルヤ」ト質問ヲ開始セルニ

「獨逸時代ヲ選フコト素ヨリナリ、島民ハ何人モカク云ヒ居レリ

然ラハ日本時代ト獨逸時代トヲ比較シテ日本時代ニ付忌憚ナキ批評ヲ聞キ度シト述ヘハ質問應答ヲ重ネタリハ彼ノ談話ノ要領左ノ通り

(一) 獨逸時代ニ於テハ名實共ニ酒精ヲ嚴禁セリ、然ルニ日本統治ノ下ニ在リテハ表面禁酒ヲ命セラルルモ内實酒精ハ自由ニ島民ノ手ニ入り所在泥醉者ヲ目撃シ得ルニ至レリ、隨テ道德ハ低下シ弊害増加ス、本官ハ日本政府ハ島民ノ衛生道德ヲ慮リ酒類ノ販賣ヲ嚴禁シ居ル次第ナル處、右ノ狀態ハ誠ニ意外トスル所ナリ、島民ハ果シテ何處ヨリ酒類ヲ入手スルモノニヤト反問セルニ彼ハ自分ハ常ニ離島ニ居住シ居ルヲ以テ克クハ承知セスト答ヘタリ、後田中宣教師ニ付右ノ狀態ヲ確メタルニ之ヲ確認シ酒類ノ出所ニ付テハ(A)守備隊下士卒酒保ニ於テ帳簿ヲ合ハセ置ケハ事足ル爲大分自由ニ島民ニ高價ニ賣渡シ居ルカ如シ(B)松山丸等寄港船ニ島民「カカヌ

一、ニテ酒キ付ケ買取ルモノアリ、船員嚙ミテ賣ルモノアリ(C)下士卒カ酒ヲ携ヘテ島民ヲ釣リ利益(特ニ島女ノ醉旋ヲナサシム)ヲ得ルモノ多シ、消燈時間後酒ヲ携ヘ兵舎ヲ出テ、島民家屋ニ至リ男女ヲ集メテ酒盛ヲナスモノ頻々タリト説明セリ  
獨逸時代ニ在リテモ皇帝ノ天長節ノ如キ酒ヲ許サレタルモ是唯一ツノ例外ナリ、現今ノ如キ一般の酒飲ノ事實ナシ

(二) 日本統治ハ目下威嚇政治ナリ、何事ニ付テモ幾分ニテモ日本人特ニ兵士ノ氣ニ合ハサルモノアラハ直ニ鐵拳制裁ヲ受ケ、而モ男女ノ別ヲ問ハス、其ノ例殆ント數フルニ違ナキ位ナリ、現ニ昨十九日吉田司令官並奉日艦乗員歡迎ノ爲、會長集リ果實ヲ初メ食糧品ノ贈物並積込ニ幹旋シ居リシカ、其ノ内ノ一人ハ何カノ行違ヒカ突然公衆ノ面前ニ於テ水兵ノ爲メ怒號ノ上面部ヲ毆打セラレ多量ノ鼻血ヲ出シ、不面目ノ爲昨今歡迎會ニハ出席セス、自宅ニ閉チ籠リ居ル有様ナリ、婦女子ニシテ兵士ノ爲メ鐵拳ヲ受クルモノ不尠、爲メニ島民ハ可成兵士ノ眼ニ觸ルルヲ避ケ居ル狀態ナリ

守備隊ト民政署ト乃至ハ日本中央政府ト「ボナベ」行政廳トノ間ニ著自ラ精神ノ異ルモノアランモツハ一般島民ニハ了解出来ス、彼等ハ日本占領當時ハ日本人ニ對シテ獨逸人ニ對スルヨリモ親善ノ態度ヲ持シ居レルヤ明ナリシモ、今ヤ彼等ハ日本ノ鐵拳統治ヲ經驗シ日本人ヲ見ルコト單ニ恐怖心ヲ以テスルノミ、(They think all have are for the Japanese and against the natives) 彼等ハ「コロニア」(政廳ノ所在地ニシテ日本人ノ多ク居住スル所ヲ指稱ス)ニ來ルコトハ非常ニ苦痛トスル所ニシテ日本人トノ接觸ヲカメテ避ケ居レリ、島民ハ獨逸時代ノ統治ヲ愚フヤ極メテ切ナルモノアリ、(署長ヨリ聞ク所ニヨレハ春日歡迎ノ爲離島ノ一部落ヨリ男女數百ノ踊リ子ヲ召シタルニ毆打ヲ受ケサル保障アラハ來島スヘシト申出テタリ、兎モ角之ヲ慰撫シテ連れ來レル趣ナリ)

(田中牧師ノ談ニヨレハ往々杖又ハ棒ノ毆打ヲ受ケ時トシテ頭骨ヲ毀チ腕ヲ折ルコトアリ、流血ノ慘ヲ見ルコト不尠、東南洋ハ「クリスト」教化セラレ風俗習慣等ヨカレ惡カラレ大體歐米人ト大差ナク唯文化低級ナルヲ見、從テ男子ハ脱帽スルモ女子ハ單ニ目禮スルノミ(女子ノ地位高

シ)然ルニ守備兵來リテ男女共日本人ニ對シ日本式敬禮ヲ強要シ若シ實行セサレハ毆打ス、女子ニシテ目禮ヲ行フハ生意氣ナリトテ公衆ノ面前ニ於テ毆打セラレタルモノアリ、島民恐怖ノ念ニ驅ラレテ容易ニ「コロニア」ニ出ツルヲ好マス、阿部兵曹、山田、森外二名ノ兵卒ノ如キ島民ハ其名ヲ呼フモ猶戰慄ス云々)

六六

(三) 風俗ハ日本統治ニ至リテ著シク惡化セリ、特ニ日本人ニ接近セルモノハ態度粗野トナリ、從來善良ノ風ヲ失ヒ甚シク野卑トナル、特ニ女子ノ如キ日本人殊ニ下士卒ノ爲メニ姦淫ヲ強要セラレ「コロニア」附近ノ女子ニテ道德ヲ宜クスルモノナキ有様ニシテ地方ノモノハ其子女ヲ「コロニア」ニ送ルコトヲ忌ムコト甚シ、特ニ言ヒ度キハ島民學校ニテ青年男女ヲモ收容セラルル處女子ハ恰モ虎狼ノ餌ノ如ク日本學校ニ通學セルモノニ對シテ道德ヲ信スルモノナキニ至リ(實例ヲ反問セシモ「ナシベ」ハ自分ハ離島ニ住ムヲ以テ「一ハ之ヲ知ラスト答ヘテ避ケタリ」署長ハ兵士其ノ他ノ品行ヲ承認シ尙島民中女子ノ統計上幾分少キ而已ナラス、目星シキモノハ日本人ノ爲メニ島妻又ハ島妾トシテ引上ケラルル關係上島民男女ハ不勝恐懼ヲ來シ居レリ云

々ト説明セリ、田中牧師ハ「民政署員以下ノ道德方面ニ關スル品性下劣ナルコト、特ニ兵士ノ不取締ニシテ夜點檢後竊ニ兵舍ヲ出テ、酒類ヲ携ヘ所謂島民女子ノ夜襲ヲ行フモノ多ク、爲メニ島民ハ其ノ居ヲ暗マスモノ少カラス、現ニ自分宅ノ女子二人ニ對シ兵士等來リ姦セントシタルコトアリ、自分ハ初メ竊盜ト思ヒタル位ナリ、守備隊長ニ其ノ旨ヲ告ケ兵士等ノ腕ニ附ケタル善行證ヲ視奪セラレタルカ其ノ後之カ爲メガ自分ニ送リ來レル味噌樽ニ泥ヲ混シ、荷物ヲ海水ニ浸ス等ノ手段ニヨリ復讐ヲ受ケタリ」島民カ兵士並ニ下級官吏ノ行爲ニ付キ訴フル所アラハ直ニ猛烈ノ變行ヲ以テ復讐ヲ受クル爲恐怖シテ訴フルコトヲ爲サス云々

(四) 宗教並學校教育關係ニ付申上度シ、宗教ニ付キ別ニ云フ所ナキモ教育ニ付テハ是迄獨逸時代共ニ宣教師ノ經營スル所ニ係リ、彼等ハ島民ノ爲メニ教育ヲ行ヒ土語ヲ教ヘ、土語ヲ以テ數字其ノ他一般教育ヲ行フ、其ノ態度モ献身的ナリシ爲メ土民ハ宣教師ノ教化ヲ喜ビ教育モ進ミ諸事便利ナリシニ、日本時代ニ至リ突然義務的教育ヲ課シ、而モ不完全ナル校舍ニ成熟セル男女ヲモ併セ強制的ニ收容シ、地村ノモノハ合宿セシメ校長夫婦ヲ他若干ノ島民助手ヲ以テ教育ス、然

六七

0343

6-0008

ルニ其ノ教育タルヤ殆ンド日本語ノ練習ニ限ラルト云フモ不可ナク、教學其ノ他實質的ノ教育ハ爲ニ舊時代ト雲泥ノ差アリ、特ニ道德習慣ノ方面ニ至リテハ實ニ戰慄スヘキモノアリ、爲ニ日本學校ニ子女ヲ送ルハ其ノ破産ニ均シ、漸ク習得セル日本語ハ實ハ日本官署ニ使用セラルルモノ、外其ノ用途ナク直ニ忘却セラル而カモ土語ヲ習ハサル爲ニ土語ニテ通信文スラ書スルヲ得ス、茲ニ日本學校ヲ卒業セル者ハ一種無賴ノ徒ト目セラルルニ至ル有様ナリ、現在ノ學校教育ハ或ハ日本官憲ノ好都合ナランモ島民ニハ百害アツテ一益ナキコトナリ、惟フニ教育ハ宣シク島民ノ爲ヲモ顧慮シ官憲ヲ離レ Good christian people ノ手ニ任ネラレンゴトヲ希望ス

學校長ノ談ニ曰ク「現時ノ教育ハ實ハ無意味ノモノナリ、日本語修得ハ幾分ノ便利アルモ日本人ハ直ニ所謂「コロニア」土語ヲ談シ土民ニ意思ヲ通スルニ難カラス、而已ナラス、土人ノ爲ニハ現在ノ教育ハ何モナラス、而モ設備不完全ニシテ何モ徹底的ニナシ得ス、自分管理ノ女生徒ニ對シ誘惑ヲ試ミル下級官吏兵卒モアリ、自分ハ土人ノ日本化教育ニハ實益ヲ見出サズ云々

(五) 然ラハ獨逸時代ニ於テ何故叛亂等アリシヤ自分ハ了解出來ス、又日本統治ノ下ニ於テモ現

ニカ、ルゴト有リ得ヘキ狀態ナラスヤ、ト反問セルニ對シ Lampel ハ獨逸時代ニ叛亂セシ「チヨ」村ノ態度ハ餘リ賛成出來ス、右叛亂ノ直接原因ハ如何ニセヨ、要スルニ宗教問題ナリ、即チ新舊兩教徒ノ軍ニシテコレニ民政署員カ、舊教ヲ壓スルカ何ヤカ兩派互ニ軋轢シ、「チヨ」ハ署長カ自分等ヲ抑壓スルモノト誤解シ、ソレニ勞役賦課ノコトヨリ誤解ニ誤解ヲ重ネ遂ニ叛亂ヲ見ルニ至レリ、而モ其後ニ至リ甚シク自己ノ非ヲ悔ヒ島民克ク獨逸政廳ニ信服セリ、今日ニ至リテハ島民ハ益々溫順トナリ、武器ヲモ有セス、唯々日本人ヲ恐レ居ル有様ニテ何等叛亂ノ怖毫モナシ、要スルニ獨逸時代ニハ善惡共ニ明定シ、惡事ハ直ニ處分セララルト共ニ無辜ノ罰セラルコトナク恩威並行ハレタリ、然ルニ今日ニ於テハ島民ハ何カ善カ何カ惡カノ標準ニ迷ヒ、唯々鐵拳政治ニ威服シ居ルナリ、以上ハ大體島民全部ノ sentiment ナリト信ス、自分ハ忌憚ナキ意見ヲ發表スルトキハ例ニヨリ複讐アラシコトヲ恐ルルモ貴下ヨリ強テ御尋ネナレハ以上大々ノミ忌憚ナク談ス、詳細ニ至リテハ短時間ノ會談ニテ御説明シ得サルヲ感ス云々

多數ノ日本人ヨリ聞ク處ニヨレバ不遠日米戰爭開始シ、本島ハ米國領トナルニ至ラジ、其時迄忍

耐スヘシト島民ハ云ヒ居レリトノコトナリ、又現ニ日本時代トナリテ獨逸時代ノ教會建物等ヲ其ノ儘毀ツニ任セテ使用シ居ルハ將來南洋拋棄ノ豫言ナラン等謂フモノアリトノコトナリ

第十一、「トラツク」(歸航)

乃二月廿三日  
至二月廿七日

一、宣教師 山口某談

日本宣教師(新教)ハ「トラツク」島ニ於テハ當夏島ノ外秋島ニ一名アリ、「ボナベ」在留ノ田中宣教師ト合セテ南洋群島ニ三名、二月二十六日夏島ニ於ケル宣教師山口某ヲ往訪ス、其ノ談話要領左ノ通り

- (一) 兵員ノ亂暴ハ甚シキモ漸次善クハナリタル模様ナリ
- (2) 毆打ハ幾分少クナリタルモ之レモ日常事ニテ敬禮ノ致方惡シトテ毆打セラルル者不尠
- (3) 酒類ハ別ニ酒保ヨリ販賣スルカ如キコトナキモ兵員ニ於テ持チ出シ或ル對價(女)ニ供給スル者少カラス

- (4) 學校ハ幸ヒ女子ノ寄宿生ヲ置カサルニ付其ノ弊ヲ耳ニセサルモ何分其ノ所在地官廳附近ニ在リテ惡習慣ヲ覺エ來リ其ノ弊害多シ
- (5) 官憲ハ譯モナク島民ヲ「カルボス」トシ爲ニ刑罰ノ威嚴ナシ、島民モ「カルボス」ニ入ルヲ何等ノ苦痛トセス、官憲ハ勞役ヲ課スル爲メ些細ノコトノ爲メニ島民ヲ拉シ來ルノ風アリ
- (6) 南洋貿易會社ノ如キ島民ニ對シテハ約一割四、五分ノ高價ヲ以テ雜貨ヲ販賣シ居レリ爲メニ島民ノ信用失墜ハ民間側ノ態度モ與リテ力アリ
- (7) 要之日本統治ニ對スル信用ハ甚タ薄ク西、獨、日其ノ次ニハト云フ風ニテ又獨逸時代ト比較スルニ日、獨ノ貨物ノ優劣乃至ハ官吏ノ數並其ノ仕事ヲ比較シテ獨人ノ如何ニモ優秀ナリシヲ思フモノノ如シ

ニ、二月二十六日ノ午後

野崎臨時南洋防備隊司令官ト會談要領

(森參謀長並ニ堀口事務官(民政部長代理)同席)

(一) 先ツ宣教師問題ヨリ談ヲ起シ「ヤル」トハ是非舊宣教師ヲ配置スルコトトシ「バラオ」トハ之ヲ配置セサルコトヲ希望スル旨述ヘ、司令官モ素ヨリ同感ナリトテ現在豫定「バラオ」配置ノ員數ヲ「ヤル」トニ配置換スルコトニ再度海軍省ニ電照スルコトヲ堀口事務官ニ指令セリ、本件ハ當司令部一般ノ意嚮ニテ本官ヨリハ「ヤル」トニハ既ニ米國宣教師モアリ、之ニ對抗セシムル内策ト又、已ニ「ヤル」トニハ規模宏大ナル舊教ノ寺院並宿舍ノ設備アリ、之ヲ利用セシムル上ヨリ云フモ將又「バラオ」ハ今後東南洋海軍中心地トナル豫定ニテ可成外國人ヲ入レ度クナキ事情ヨリ見テ舊宣教師ノ「バラオ」配置ヲ廢シ、之ヲ「ヤル」トニ送ルコト得策ナルヘキヲ述ヘ置キタリ、尙宣教師問題ニ關聯シテ現在ノ如キ統治ノ狀況ニテハ宣教師、新聞記者ノ如キ外國人ハ可成多ク來ラサルヲ希望セサルヲ得ス、蓋日本ノ委任統治狀況ニ付外國人ヨリ可ナリ非難ヲ蒙ルヘキ素地充分ナル旨ヲ述ヘ置キタリ、尙宣教師取扱振ニ付種々氣附ノ點ヲ反覆説明シ置ケリ

(二) 「ボナベ」、「ヤル」トノ守備隊員ノ亂暴舉措其ノ他統治ノ狀況ニ付キ忌憚ナク意聞セル所ヲ詳細ニ互リ述ヘ、特ニ兵員ノ毆打、脅迫、酒類ノ融通日本人ノ道德問題並學校教育ノ弊害等

ヲ指摘シタルニ司令官以下充分聽取シ、司令官ハ特ニ「ボナベ」守備隊長ニ一應注意ヲ與フヘキ旨參謀長ニ命セリ

(三) 統治ノ方針ニ付テ特ニ司令官ノ意見ヲ確メタルニ別ニ確明ノ意見ナキモノノ如ク、何分速ニ方針決定ヲ要ス旨述ヘラレ、尙吉田司令官ノ云ハル臺灣附屬説ハ航路ヲ是非臺灣中心トナスノ案ナキ限リ、地理上ヨリ見ルモ又生産品(椰子實)ノ點ヨリ見ルモ首肯シ難ク、矢張獨立ノ南洋廳ノ如キモノヲ設クルコト可然旨述ヘラレタリ

(四) 其ノ他「バラオ」ノ狀況ヲ地圖ニ付詳細説明セラレタリ

三、尙司令官トノ會談後、森參謀長ハ本官ヲ特ニ自室ニ招キ、吉田司令官ハ大體「ヤル」トニ於テハ守備隊ト民政部トノ關係面白カラズ、「ボナベ」ニ於テハ極メテ圓滿ニ行キ居レリトノコトナリシニ付、稍不審ヲ抱キ居タルニ付今同貴下ノ説明ニヨリ判明セリトテ種々本官ノ説明ヲ聽取シ且意見ヲ交換セリ、其ノ要領左ノ如シ(吉田司令官ハ後繼内ニ於テ「ボナベ」、「ヤル」トノ關係ハ本官ノ説明ニ依リテ判明セリトテ、其ノ事情ヲ詳細ニ談話セリ)

(1) 本官ハ忌憚ナク謂ハハ守備隊ナルモノハ百害ヲツテ一利ナシ又守備隊ニヨリテ海軍軍事

上ノ設備等ノ利便ヲ得ントスルモノハ他ニ可然方法アルヘシ、例之將校ヲ駐在ヲ許スカ如キ可然ハ兵員ノ駐在ノ如キハ望マシカラスト述ヘタルニ參謀長ハ軍事上重要地點ハ矢張り守備隊ヲ置キ一朝有事ノ際ノ準備特ニ石油貯藏其ノ他ノ設備ヲ爲スヲ要ス、  
「ヤル」ト、「ヤツ」  
「サイバン」守備隊ハ之ヲ撤廢ニ決シ居ルモ「サイバン」ハ「グアム」ニ近ク之ヲ保存シ度キ意見ナリト述ヘタリ、要スルニ海軍側ハ守備隊ヲ駐在中ニ相當ノ設備ヲ完了スル意嚮ナルモノノ如シ

(2) 各地ニ於ケル守備隊員ノ暴行ニ付テハ參謀長ハ本官ノ聽取セル所ハ稍誇張ニ過キスヤトノ意嚮ヲ洩シタルニ付、本官ハ自分ノ聽取セル所ハ僅カニ短時間ノ聽取ニ係リ尙聽洩シソコトモ多アルヘク、況ヤ當局者タル貴下等ノ耳ニ入レルモノハ極メテ僅少ナルヘキヲ疑ハス、爲政者ハ島民ノ立場ヨリ事ヲ考フルヲ要スヘク、又兵員ノ亂暴ヲ默許セルカ如キ態度ヲ上長官ニ於テ探ルコトアラハ軍隊ノ規則ニ關スヘク、國民トシテ寒心ニ不堪ル旨ヲ説キタルニ參謀長ハ首肯シ何分ノ措置ヲ採ルヘキ旨ヲ約セリ

四、二月二十六日午前南貿支店員ノ談及二月二十七日南貿支店長ノ談話要領

- (一) 經費節減ヲ行フモ若シ直接輸出ヲ許ササルコトアラハ多クノ「trader」(商社)ハ南洋貿易會社ヲ拔キニスルコトナリ、常ニ困難スルニ付南洋貿易會社獨占ノ方針ヲトランコトヲ希望ス
- (二) 島民ニ對シ約一割二三分ノ高値ニ販賣スルハ物價騰貴ノ際ノ仕入品多ク止ムヲ得ス又日本人ト同一賣値ニスル時ハ日本人側甚シキハ隊長ヨリ苦情アリ、止ムヲ得ス如此スルナリ
- (三) 商賣ハ今迄ノ混亂時代ヲ過キ漸ク落付カントシツツアリ、今後前時代ヲ繰返スコトナラハ一般ノ打撃ナリ云々

第十二「オレアイ」(Oleai, Oleai, Woleai, Uleai, Anangai.)

地理的概説

- 一、所 屬 西「カロリン」群島
- 二、位 置 北緯 七度二〇分—七度二五分  
東經 一四三度五二分—一四三度五八分
- 三、距 離 「下陸」ツツツツ西方へ五六六哩 二十一、主島マニラニ對シ、北緯 七度二〇分—七度二五分  
東經 一四三度五二分—一四三度五八分



四、地 勢 二個ノ環礁ヨリ成リ、島嶼ノ數二十一、主島ヲ「Palap」ト稱シ、長

五、人 口 約四分ノ三、三ノ三角形ヲナス

六、産 物 「コブラ」年額約五六十噸

三月二日着、同日出港

本島ニハ南洋貿易會社分店アリ、分店員士井某ノ談ニヨルニ「コブラ」ノ産額年五六十噸、島民ハ五

〇〇人柔順ニシテ「コブラ」ノ産出ニ従事ス

學校ハ南貨支店員カ教鞭ヲトリ居レリ

本島ハ客年十二月ノ暴風ニテ椰子樹ノ損害頗ル多ク、爲メニ産額モ減スルナラン、客年中ニ都合三

同ノ暴風アリタリ云々

第十三「ウルチ」 (Ulusi, Uusi, Uai, Uiti, Uewi, Ugu, Egu, Mackenzie-Inseln, Los Reyes, Garbanzos)

地理的概説

一、所 屬 西「カロリン」群島

二、位 置 北緯 九度四七分—十度七分 東經 一三九度三七分—一四〇度四分

三、地 勢 二個ノ環礁ヨリ成ル低平ナル珊瑚礁ニシテ西「カロリン」最大ノ島群

四、住 民 「カナカ」族

五、人 口 四九〇人

六、産 物 「コブラ」年約四十噸

三月四日着、同日出港

南洋貿易會社分店員正岡民造談要領

(一) 「コブラ」年産額約四十噸

(二) 島民ハ四九〇人柔順ニシテヨク働ク

- (三) 南洋貿易會社本島分店ノ賣上年額約二千圓ニテ品物ハ雜貨ナリ
- (四) 店員學校ヲ開キテ日本語等ヲ教授ス、生徒數四十
- (五) 海產物トシテハ正覺坊、「カブト」貝、「ナマコ」等アリ
- (六) 宗教ハ島民獨特ノモノアリ、宣教師ナシ

第十四、「ヤップ」島 (Yap, Jap, Elap, Uap, Arrioles, Caroline)

地理的概説

- 一、所 屬 西「カロリン」群島
- 二、位 置 北緯 九度二五分—九度三六分  
東經 一三七度五八分—一三八度八分
- 三、面 積 二〇七平方基米
- 四、距 離 「ドラック」ヨリ約一、〇〇〇海哩、「パラオ」ヨリ四〇〇海哩
- 五、地 勢 (島地南北ノ長約三十二基米、幅二乃至七基米、島ノ周圍ハ所謂「ヤップ」海溝ニシテ深所多ク七、五三八米ニ及ブ所アリ)
- 六、住 民 「カロリン」族ニ屬スル一族ナリ

七、人 口 五、〇〇〇人  
八、産 物 「コブラ」

三月五日着、翌六日出港

一、民政署長ニ就キ本島ノ事情ヲ聴ク大要左ノ如シ

- (一) 「ヤップ」民政署管内島民數約五千、性質柔順ナリ、産業ハ「コブラ」以外見ルベキモノナク  
「コレ」モ從來ハ約六百噸ヲ産シタルモ客年十二月十六、十七兩日ノ暴風ニテ多大ノ損害ヲ蒙リタル爲産額餘程減少スル見込ナリ、當島ハ陸島(地理學上)五六百「メートル」ノ山岳アレトモ火山島ノ常トシテ土地嶮峭到底農產物ヲ望ムヘカラス、最近棉花ノ栽培等ヲ試ミタルモ成績良好ナラス其ノ他水産ニ至リテモ農業同様全然見込ナシ、次ニ本島ハ有名ナル海底電線ノ中心點ナリ  
「モ目下」「ヤップ」上海線ハ之ヲ那覇ヲ陸揚シ「ヤップ」メナト、「ヤップ」グアム「ハ之ヲ陸揚ノ儘トナシ置ケリ」
- (二) 民政部並守備隊間ノ關係ハ他島ニ異リ圓滿ニシテ軋轢スルコトナシ又島民ニ對スル兵員ノ

醜行爲特ニ婦女子ニ對スル醜聞等モ餘リ甚シカラサル趣ナリ

(三) 宗教ハ舊教行ハレ舊教教會アレトモ目下宣教師ナク、島民自身ニ於テ毎日曜日ニ禮拜ヲ繼續シ居レリ

(四) 本島ニハ少數ノ「チャムロ」族アリ、之等米領「グアム」島ニ旅行スルモノニ對シテハ單ニ許可書ヲ與フルノミニテ他ニ何等ノ手續ヲ採ラス、尤モ從來餘リ其ノ例ヲ見ス、(此方面ハ「サイパン」ニ於テ行フ方法ト異リ居レリ)

二、尙「ヤップ」守備隊長ノ談話ナリトテ、海軍側便乗者ヨリ聴取セル所左ノ通り

(一) 「ヤルト」事件ハ守備隊ニ全然責任ナシ、然ルニ喧嘩兩成敗ヲ受ケタルハ意外千萬ナリ

(二) 日本ノ經營ハ要領ヲ得ス、經費モカケス威信ヲ墜シ、行政官ノ素質不良ニシテ島民教育ノ如キモ結局失敗ナリ、島民ニ對シテハ充分ニ經費ト努力トヲ吝マス人物ヲ採用シテ南洋ニ派遣スヘキナリ

(三) 南貿會社等ノ商人等ハ競争ノ結果島民ヲ壓迫シタル結果全然信用ヲ失ヒ Burns Philip 會

社ヲ悦フモ至レリ云々

### 第十五「パラオ島」(Pala, Pllau, Palao, Palen.)

地理的概説

一、所 南ハ「カロリン」群島

二、位 北緯 六度五〇分—八度一〇分 東經 一三四度一〇分—一三四度四八分

三、距 距「ヤップ」島ヨリ三九八海里、「アンガウル」ノ北方約六〇海里

四、地 火山島ニシテ内部地方ハ緩傾斜ノ丘陵ヨリ成ル、南部ハ海ニ向テ急斜セル丘陵ヨリ成ル、折シテ此中ニ海水ヲ堪エ、小川ヲ通ズ、在島邦人曰ク南洋ノ耶馬溪ナリト

五、住 民 「カロリン族」

六、人口 當民政署管下、六、三四八八

七、產 物 「コブラ」以外多少ノ果實ヲ産ス

八、行 政 南貿會社政署並守備隊本部ヲ置キ、島民教育、警察、衛生等事務ハ、三月八日着、三月廿日退任、同會社政署(南洋支店)ニ移シ

八日午後民政署、守備隊本部、司令部應舎(目下新築中)ヲ歴訪ス

九日午前「マラカル」泊地、南實會社ヲ視察シ民政署長ヲ訪ヒ、農園、島民村落、寺院、學校寄宿舎

其ノ他ヲ視察ス

午後守備隊應舎ニテ島民ノ舞蹈ヲ見ル

十日早朝拔錨

# 一、民政署長トノ會談要領

## (一) 官憲ト島民

守備隊員特ニ兵員ノ島民ニ對スル亂暴ハ各地ト同様随分極端ノコトアリ

(A) 酒ハ公然販賣スルカ如キコトナキモ、可ナリ島民ノ手ニ渡リ居ルモノノ如シ、島民ノ嗜好物タル酒ヲ與ヘテ或ハ種ノ對價ヲ得ントスルモノナリ

(B) 島民ニ對スル毆打ハ甚タ減シタル様覺ユ

(C) 島女ニ對スル道德ノ點ハ漸次改良セラレ來リタルカ如キモ此點ハ一年交代ノ若キ水兵等

足ヲ踏ムル間ハ弊害ナキヲ期ス能ハス、此點ハ内地鎮守府所在地ニ於テモ同様ナルシ、只殖

民地ニ於テハソレカ極端ニ陷リ易キノミ、例ヘハ兵員カ島民學校女生徒寄宿舎ノ戸ヲ破壊シ

テ侵入シ獸慾ヲ充タシタルコトアリ、島民ニ對スル日本人ノ威信ヲ保タント欲スルモ能ハス

(C) 島民ハ兵員若クハ下級官吏ノ復讐ヲ恐ルルカ故ニ如何ナルコトモ之ヲ公然訴ヘ出ツルコ

トナク諸事泣寝入りノ有様ナリ

要スルニ島民ハ日本人ニ懷クト謂フコトハ寸毫モナク、唯々威壓セシメラレ居ル模様ナリ、彼等

ハ極メテ柔順ニシテ而カモ東方諸島ト稍趣ヲ異ニシ幾分勞働ヲモ厭ハサル傾アリ

## (二) 島民教育問題

宣教師學校ハ獨逸宣教師退去後其ノ跡ヲ絶チ(尤モ信者極メテ少シ)從テ日本學校トノ軋轢起ラ

ス、島民ハ記憶力ニ富ミ、内地ノ兒童ト大差ナキ頭腦ヲ有ス、特ニ手工ヲヨクス、唯早熟ノ弊ハ

之ヲ免ルヘカラズ

兒童ニ對シテハ在留日本人ノ態度一一學校教育ト矛盾ノコトアリ(水兵ノ女生徒夜襲ノ如キ)教

育ノ成果容易ニ擧ゲ得ス

要スルニ將來外務省關係事項トシテ委任統治ノ關係上外國トノ間ニ彼是問題ヲ起スハ守備隊ヨリ  
スルコトハ今日ヨリ想見スルニ難カデス次ニ

(三) 宣教師問題 當地ニハ稍祖先崇拜ニ似タル一種ノ幼稚ナル宗教アリ、各所ニ社ヲ有シ例祭  
ヲ行フ、此神ノ宣託ト稱シテ種々ノ出來事ヲ豫想シ若クハ誤信ス、獨逸時代ニ於テハ之カ禁壓  
策ヲトリ「クリスト」教ニカヲ盡セリ、然レドモ日猶淺ク其ノ信者ハ甚タ少シ、如フルニ「カトリ  
ク」教會僧侶宿舍ノ如キ今日尙廢シ使用困難ナリ、其ノ使用ニ堪フルモノハ官舎トシテ之ヲ使用  
シ居レリ、之ヲ西班牙宣教師ニ明ケ渡スコトハ誠ニ當惑ノ至リナリ

(四) 司令部、兵舎、水交舎、俱樂部等立派ニ出來上リ居レルモノハ民政官ハ官舎ノ設備ナク、  
土人ノ家屋ヲ賃借シ居ル有様ニシテ設備極メテ不完全ナリ、統治上困難ヲ招クコトアリ

二、「バライオ」守備隊長モ島民ハ殆ンド總テ日本人ノ爲ニ生存シ居ル有様ニシテ勞働ノ如キ殆ンド無  
償ニテ強制セラレ居ル狀態ナルヲ語レリト同乗者ヨリ聞ケリ

第十六、「アングウル」(Angaur)

地理的概説

別紙海軍探礦所作製印刷物ニ譲ル

視察

別紙海軍探礦所作製印刷物ニ譲ル

三月十日「アンガウル」

「アンガウル」島案内概記 (大正十年三月一日調)

一、位置

中 央 北緯六度五十四分十九秒  
東經百三十四度十一分

島ノ南端天測點 北緯六度五十三分十九秒  
東經百三十四度十分六秒

二、廣 袤

南 北 三十五町三十六間

東 西 二十五町三十間弱

三、燐礦ノ生因

本島燐礦ハ第三紀層ニ屬シ、珊瑚礁上ニ推積シタル海鳥糞ニ由來ス、降雨多キ南洋ノ燐礦島ニ於テハ外來影響大ニ異ル、即チ海鳥ノ排泄物ニシテ其溶解性鹽類竝ニ有機質ヲ失ヒタルモノハ大體燐

酸三石灰即三磷酸三石灰之混合物ノ外炭酸石灰、矽酸、硫酸、磷酸、如キ礦物成分ニモ殘存セシ、然レテ前記ノ溶解性鹽ナル即チ一石灰及二石灰ノ一部ハ地下水ニ爲メ溶解シ下層ノ岩石ト交互作用ヲナシ本來ノ海糞ノ殘存物トハ異ナル物質ヲ形成ス是俗ニ云フ磷礦ナリ尙其ノ化合狀態ヤ改テ如シ

磷酸三石灰ハ水特ニ其炭酸或ハ有機鹽類ニ富メルモノニハ或ル程度迄溶解スルモノナルカ故ニ此  
 水溶液ニシテ下層ノ珊瑚石灰ニ逢フ時ハ炭酸ヲ遊離シテ磷酸三石灰ヲ形成ス、非常ニ稀薄ナル溶  
 液ニ於テハ磷酸二石灰ハ磷酸三石灰及磷酸三石灰トニ分ル

斯ノ如クシテ生成シタル磷酸ニ石灰及海鳥糞ノ溶解ヨリ來ル一石灰ハ混加セル或ハ下層ノ碳酸石灰ニ對シ非常ニ強キ分解作用ヲ加ヘ仍テ以テ珊瑚ノ磷酸化成シ由來スルモノナリ

#### 四、磷礦ノ種類並品質

本島全部ハ殆ント燐礦ヲ以テ構成セラルルト云フモ敢テ不可ナカラン、併シ全島ノ中央以北ニ最モ多量ニ存在シ漸次南進スルニ從テ其ノ量ヲ減ス

燐礦ノ形成ニ依ル種類ニ至リテハ燐礦層ノ位置ニ依リ其ノ形狀品質一定セス、而シテ其化合狀態ハ何レモ非晶性ニシテ瘤塊狀、魚卵狀、粉狀、礫狀等アリ尙有機物ノ分解ト無機物成分鐵化合物ノ多少ニヨリ白色、褐色、黑褐色、帶黃褐色等種々ノ着色ヲ見ルニ至ル

燐礦ノ品質ニ於テモ着色トナナル關係ヲ有シ、總括シテ白色ナルハ品質最モ優良ニシテ遂次着色ノ度ヲ増加スルニ從ヒ低下ス、又礫狀ハ粉狀ニ比シ品質稍々劣ル

礫床ノ最モ深キ所ハ十米ニ達シ淺クトモ一二呎ヲ有シ又位置ノ高低ニ依リ自ラ一定ノ區劃ヲ表セリ而シテ礫量ニ至リテハ島ヲ形成スル珊瑚基底ノ甚タ不正形ナルト之ニ依リテ來ル燐礦層ノ非常ニ不均整ナルトハ自ラ總量ヲ推算ヲ困難ナラシムルモ概量三百五十萬乃至三百萬噸ノ間ナ

## 五、礦區

本島燐礦ハ各位置ニ依リ其品質ニ高低アルヲ以テ成分統一上各礦區ニ分割シ採掘シツツアリ、現今採掘中ニ係ルモノ第二、第三、第七、第八礦區ニテ其ノ概況左ノ如シ

6-0008

**国立公文書館 アジア歴史資料センター**  
Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

第二礦區 二層ノ中、第一層ノ底、第八層ノ底、其ノ間、地層ノ厚、約一、二メートル、其ノ中、白色粉狀ニシテ頗ル強キ粘着カヲ有ス、採掘跡ハ、常に海水湧出ス、品質最モ優良ニシテ磷酸石灰七八—九二%ヲ含有ス

第三礦區

第二礦區左方高地ニテリ、區域廣大ニシテ高燥ナリ、現在三ヶ所ヨリ採掘シタツテ、品質中等ニシテ帶黄褐色、褐色粒狀、黒褐色粒狀等アリ、水分含量少ナク採掘最モ容易ナリ、磷酸石灰八五—八六%ヲ含有ス

第七礦區

島ノ東北底窪地ニテリ、品質中等ニシテ灰黒色、粒粉狀混合ニシテ當時採掘跡ニ海水湧出ス、多量ノ水分含有ス、磷酸石灰八〇—八五%ヲ含有ス、第八礦區 二層ノ中、第一層ノ底、第八層ノ底、其ノ間、地層ノ厚、約一、二メートル、其ノ中、白色粉狀ニシテ頗ル強キ粘着カヲ有ス、採掘跡ハ、常に海水湧出ス

六、精 礦

舊第一礦區ニ隣接シ略長方形ニシテ東北方ニ向テ延長ス、地勢平坦焦燥ニシテ水分少ナク、採掘容易ナリ、品質中等褐色粒狀ニシテ磷酸石灰含量八二乃至八四%ヲ有ス

精礦ト稱スル灰青色燐礦ハ前記各礦區ヨリ採掘シ來レル原礦ヲ廻轉乾燥機ニヨリ火力乾燥ヲ行ヒ水分ヲ脱却シタルモノニシテ是即チ磷酸肥料ノ原料ナリ

精礦分析成績

全 燐 酸	三九、四一%
燐 酸 石 灰	八六、〇七%
磷酸化鐵 礫 礬 土	一一、一五%
水 分	一、五〇%

七、諸設備

獨逸燐礦會社ノ設備セルモノニシテ南洋經營組合ヨリ引繼ヲ受ケ目下當所保管中ノモノ



建築物	事務所	一
住宅	三〇	
俱樂部	一	
食堂	一	
病院	三	
倉庫	一六(精礦貯藏庫ヲ含ム)	
島民宿舍	一九	
分折室	一	
工場	七	
橋	二	
機械	一	
蒸汽機關	三	
重油機關(ディーゼル式)	二	
機關車	五	
敷設軌道	約五哩	
其他工場機械大小	二七	
發電機	三	
電動機	三六	
南洋經營組合ヨリ購入セル建築物左ノ如シ		
職工宿舍	二	
倉庫	四	
食堂	一	
理髮所	一	

當 直 室

九四

八、生産及貯蔵能力

乾燥圓筒六本ヲ有スルモ二本ハ使用不適ナルヲ以テ四本ヲ全カトス、一本ノ能力一晝夜百噸トシ  
四噸ヲ生産スルコトヲ得

精礦貯蔵庫長サ百四十五米突巾十米突巾ニシテ精礦重量一立方呎三十三基ナラハ約一萬八千佛

噸ヲ貯蔵スルコトヲ得

九、積込能力

總テハ狀況良好ナラハ「ベルト」積込時間百八十噸乃至二百噸ヲ搭載シ得ヘキモ、開所以來ノ經驗  
ニ依ルルキハ約百二十噸ヲ以テ最大トシ、又「ボート」積込ハ一時間約三十噸位ニシテ目下ノ處「ベル  
ト」積込併行セザルニ是「ベルト」積込能力充分ニシテ礦船船内ノ均シ方等ノ爲メ「ボート」積込餘  
地ナシト云ハレタリ

十、精礦生産豫定量

島渡契約ニ依リ定マルモノナルモ先ツ毎年度六萬六千英噸内外トシテ差支ナク、從テ之ニ要スル  
原礦約八萬六千英噸位(水分百分ノ二十減耗量百分ノ三ト概定)ヲ採掘シツツアリ  
大正四年度以降精礦生産高及内地ヘノ送達高左ノ如シ

十一年 度

精礦生産高

内地ヘ送達高

備

考

大正四年度

二〇、三八六・〇〇〇

八、九一八・三八二

自大正四年十一月賣却  
至同 五年三月

同 五年度

四四、三七六・三三〇

四、二七五・七四〇

賣却

同 六年度

四〇、四二五・七九一

二、三七五・九〇二

島渡(大正六年十一月以降島  
渡トス)賣却

同 七年度

五一、五二四・〇二八

六、五七八・〇三二

島渡

同 八年度

六九、四九八・二〇五

六、五八三・六九六

同

同 九年度

五五、四七六・七三四

四、八〇六・四四一

島渡(但十年三月迄  
賣却高)

合計

二八、六七八・〇七八

六、四九三・五五一

島渡高

十一合算計 二八、六七八・〇七八 二六、九二六・八八九

九五





6-0008

0360

二

4926

香港  
本署

吉十年  
四月

内田外務大臣

鈴木總領事

第八号

重光海軍官署

南洋  
陸軍

南洋ニ関スル報告書(但乙号統治ニ関スル觀測後  
送ス)ハ台湾總督府ニ依頼シ三月廿五日台北ヨリ  
發送セリ

統治ノ制度トシテ、植殖局内ニ規模大ナル  
一部局ヲ設ケ簡單ニ統治ヲ行フニ然可キ意  
見ナリ海軍側ノ觀察者ハ南洋ノ軍事ノ價  
値ヲシテ陰ニ軍事ニ施設ヲ行ノ可キ莫ニ重キ

ヲ置キ可キ海軍者ノ手ニ於テ統治ヲ續行シ  
度キ其見ヲ有スル者多シ種々弊害ヲ伴フ  
報告書中ニテ承認知ナルニ付統治ヲ海軍ノ手ヨ  
リ分離ス可キ根本方針ヲ至急確立スルヲ緊  
要ト思考ス

極秘

大正十年五月十一日  
常務理事三條 孝義

(已號用紙)

自大正九年四月採礦所事業計畫要領書  
至大正十年三月

當期間ノ精礦引渡數量ハ六萬六千英噸月額五千五百英噸ノ豫定ニシテ積込ノ際ノ減耗率一分ヲ見積リ精礦六萬六千六百英噸月額約五千五百五十英噸ヲ生産スルモノトス而シテ右ノ生産ニハ從來ノ經驗ニヨリ原礦中水分其他ノ減耗ヲ約百分ノ二十トシ原礦量九萬噸一箇月約七千五百噸ヲ採掘スルモノトス

右ノ礦量ハ前年度ニ於テ採掘未了ノ第二、三、五、七礦區ノ殘部ト新礦區トヨリ採掘シ品質ハ各礦區ノ成分ニ應シ適量ニ混合シ百分中燐酸石灰

外務省

(已號用紙)

八六乃至八七ヲ標準トス

使用労働者ハ職工邦人支那人「サイバン」八四十九名占領諸島ヨリ交代補充スル島民礦夫四百三十五名ノ現員ヲ持續シ採礦乾燥機械電氣建築運輸ノ諸事業ニ分役ス

採掘ハ毎月機關車五臺ヲ交互使用シ稼働日數二十五日一日三百噸一箇月七千五百噸ニシテ乾燥作業ハ原働機關ノ能力小ナルト豫備機關ヲ有セサル關係上一箇月中分解手入ニ要スル七日間燐礦積込ニ要スル六日間ヲ控除シ尙當期間ニ於テ一回機械ノ總分解手入ノ爲メ約三十日ヲ控除シ毎月平均十八日乾燥圓筒平均三箇ヲ運轉シ一日約三百~~五~~十噸一箇月約五千六百五十噸ヲ生産スル工程ナリ

諸營造物、機械器具、棧橋、船舟、繫留浮標等ハ一汎ニ保存修理ノ手入

外務省

6-0008

0362





外務省

第四節	運輸費	三、〇〇〇〇〇〇	三、〇〇〇〇〇〇	一	差増 當期間ニ於テ各倉庫及工場屋根替ヲ要スル爲メ亞鉛鍍波形鐵板其他購入ノ必要額前期ヨリモ増加セシニ依ル
第五節	建設費	三九、五九八〇〇〇	三六、〇九八〇〇〇	三、五〇〇〇〇〇	
第六節	雜費	七〇〇〇〇〇	七〇〇〇〇〇	一	

(已號用紙)

外  
務  
省

食	燃	材	器	種
品	料	品	具	類
三六、六四四〇〇〇	二一〇、七六六〇〇〇	四五、一九四〇〇〇	二二、二九二〇〇〇	金額
<p>           廳中用備品、消耗品及治療品ヲ含ム            石炭重油石油代石炭ハ一箇月消費量四三〇            噸ニシテ一噸ニ付三七、〇〇〇ト見積リ重油石油            ハ最近購買價格ニ依ル         </p>				

(已號用紙)

第三節	物品費	三二四八九六〇〇〇	三三、五三五〇〇〇	一、三六一〇〇〇〇
第二節	職工人工夫	五六七二五〇〇〇	五一、二八〇〇〇〇	五四四五〇〇〇
第一節	食料	四六四三〇〇〇	二、一四四〇〇〇	四三九二〇〇〇
旅費及賞與				
賜託				

極秘

大正九年  
省約三課  
大入  
(已、號用紙)

一三 財 務

本年度歳入豫算ハ參拾壹萬八千八百八拾參圓ナルモ内拾萬百貳拾八圓ハ前年度繰越金ナルヲ以テ經常歳入トシテ計上シ得ヘキ額ハ貳拾壹萬八千七百五拾五圓ニ過キス而シテ本年度ニ於ケル歳入徴收狀況ハ輸出税及輸入税ニ於テ著シク減收ノ見込ニアリ其ノ因テ來ル所ハ近時「コブラ」商況不振ノ結果「コブラ」ノ輸出ヲ減シ延テハ日用貨物ノ購買ニ影響ヲ及ホシ輸入貨物ノ減少トナリ此處ニ輸入税及輸出税ノ減收ヲ見ルニ至リタルモノノ如シ

繰越金ハ從來歳入ノ大部分ヲ占メタリシモ歳入ノ增收ナキニ不拘歳出ハ逐年著シク増加ノ趨勢ニ在レハ繰越スヘキ金額ハ漸次減少スヘキハ必然ニシテ久シク歳入ヲ之ニ俟ツヘキモノニアラス然ルニ現下

外 務 省

(已、號用紙)

本島ノ狀勢ヨリ稽フルニ現在ノ税制ニテハ近ク歳入ノ増加ヲ圖リ得ヘキ餘地ナキモノノ如ク又假リニ税制ノ整理ヲ行フカ如キ場合アリトスルモ幾何ノ歳入ヲモ増加シ得ヘシトハ認メ難シ

歳出豫算ハ其當初極力節約ノ方針ヲ以テ編成シタルモノナルカ爾來暴風被害ニ依ル復舊工費ノ支出又ハ職員ノ舍宅不足ナルカタメ家屋購入修理或ハ學校新築等不得止モノアリテ歳出ハ著シク増加シ此等ノ費用ハ豫備費ヲ以テ支辨シ來リシト雖トモ是又既ニ瀕渴セントスルノ狀況ニ在リ財政ニ付キテハ多大ノ顧慮ヲ要スルモノアルナリ  
大正九年度前半ニ於ケル歳入歳出狀況左ノ如シ

(別 表)

外 務 省

科	目	算	年	額	大正九年自四月實收額
民	政	資	金	三、一八、八八三、〇〇〇	一〇、一、四四三、〇五〇
	手諸稅及料	人頭稅	四、一、二四三、〇〇〇	七五、五七七、七七〇	二九、九八八、三〇〇
	營業稅	營業稅	二、四、四五〇、〇〇〇	一〇、二一二、五〇〇	二、一、一五一、五二〇
	輸入稅	輸入稅	五八、一九三、〇〇〇	二、一、一五一、五二〇	一、四〇一、三四五〇
	輸出稅	輸出稅	四八、六四四、〇〇〇	一、四〇一、三四五〇	〇
	採取金	採取金	二、三九、〇〇〇	〇	〇
	免許料	免許料	七、一〇〇、〇〇〇	二、一、一五一、五二〇	〇
	官業及官有財產收入	官業及官有財產收入	四、六、六九六、〇〇〇	二、四、一一一、七七〇	三、四、六二〇、〇〇〇
	病院收入	病院收入	七、〇九〇、〇〇〇	〇	〇
殖產收入	官有物代	官有物代	一、三、六一〇、〇〇〇	八、三、二二五、三〇〇	二、二、二九五、三〇〇
	租稅コブラ	租稅コブラ	一、八、九七五、〇〇〇	七、八、三七五、〇〇〇	〇
	拂下有物	拂下有物	〇	〇	〇
	官有物	官有物	〇	〇	〇
	貨下料	貨下料	二、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇
	土地貸下料	土地貸下料	二、〇七〇、〇〇〇	二、二、六〇二、一〇〇	〇
	船舶貸下料	船舶貸下料	〇	〇	〇
	續區稅	續區稅	〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
	續區稅	續區稅	〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〇
	雜收入	雜收入	五、八〇〇、〇〇〇	七五、三五一、〇〇〇	五〇、七〇〇、〇〇〇
	懲罰金及	懲罰金及	三、二〇〇、〇〇〇	〇	〇
	沒收金及	沒收金及	〇	〇	〇
	違約金及	違約金及	〇	〇	〇
	雜收入	雜收入	二、六〇〇、〇〇〇	二、四、六五一、〇〇〇	〇

外務省

(已號用紙)

科	目	算	年	額	大正九年自四月實收額
民	政	資	金	三、一八、八八三、〇〇〇	一〇、一、四四三、〇五〇
	手諸稅及料	人頭稅	四、一、二四三、〇〇〇	七五、五七七、七七〇	二九、九八八、三〇〇
	營業稅	營業稅	二、四、四五〇、〇〇〇	一〇、二一二、五〇〇	二、一、一五一、五二〇
	輸入稅	輸入稅	五八、一九三、〇〇〇	二、一、一五一、五二〇	一、四〇一、三四五〇
	輸出稅	輸出稅	四八、六四四、〇〇〇	一、四〇一、三四五〇	〇
	採取金	採取金	二、三九、〇〇〇	〇	〇
	免許料	免許料	七、一〇〇、〇〇〇	二、一、一五一、五二〇	〇
	官業及官有財產收入	官業及官有財產收入	四、六、六九六、〇〇〇	二、四、一一一、七七〇	三、四、六二〇、〇〇〇
	病院收入	病院收入	七、〇九〇、〇〇〇	〇	〇
殖產收入	官有物代	官有物代	一、三、六一〇、〇〇〇	八、三、二二五、三〇〇	二、二、二九五、三〇〇
	租稅コブラ	租稅コブラ	一、八、九七五、〇〇〇	七、八、三七五、〇〇〇	〇
	拂下有物	拂下有物	〇	〇	〇
	官有物	官有物	〇	〇	〇
	貨下料	貨下料	二、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇
	土地貸下料	土地貸下料	二、〇七〇、〇〇〇	二、二、六〇二、一〇〇	〇
	船舶貸下料	船舶貸下料	〇	〇	〇
	續區稅	續區稅	〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
	續區稅	續區稅	〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〇
	雜收入	雜收入	五、八〇〇、〇〇〇	七五、三五一、〇〇〇	五〇、七〇〇、〇〇〇
	懲罰金及	懲罰金及	三、二〇〇、〇〇〇	〇	〇
	沒收金及	沒收金及	〇	〇	〇
	違約金及	違約金及	〇	〇	〇
	雜收入	雜收入	二、六〇〇、〇〇〇	二、四、六五一、〇〇〇	〇

外務省

(已號用紙)

6-0008

0355

[illegible]

外務省

		繰越金					
	繰越金						
	一〇〇、一二八	〇〇〇					
	〇	〇					

(已 號 用 紙)

0367

					治療費		囚徒費			
傳染病預防及消毒諸費	雜給雜費	病室諸費	藥劑費	療用品費		物件費		雜費	物件費	人件費
七〇〇〇	一三、九七二	三、〇三九	一三、六二三	一〇、六五一	四一、二九二	一、四七六	一、四七六	八七三	二五、七〇八	一九、三四八
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
〇	六、五七七	九、二三六	五、六三七	三、一八七	一六、三二六	六、九七〇	六、九七〇	二、三六九	四、二一六	七、二五八
	七八〇	六一〇	一六〇	四〇〇	〇四〇	〇五〇	〇五〇	九八〇	二四〇	三〇〇

外務省

(已號用紙)

					警察費					殖産費
教育費	機密費	雜費	物件費	人件費		雜費	獎勵費	物件費	人件費	
四五、九二九	二、〇〇〇	一〇三	六七五	一八、六六六	三、四四四	四、八九三	一、〇〇六	一〇、五七三	二〇、九六二	三七、四三四
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
一一、七一一	一、〇九〇	〇	二、四九三	七、八八八	九、二二七	一、三五〇	〇	三、九六七	九、四四三	一四、七六一
五二〇	一七〇		三六〇	二二〇	七五〇	五五〇		六二〇	三〇〇	四七〇

外務省

(已號用紙)

6-0008

0368

極秘

事務官長	事務官	技官	醫官	譯官	書記生	技官補	醫員	税關吏
一	八	三	七	一	三	四	一	二
六								

現在民政職員數

右の如き五ノナニ

(已號用紙)

陸軍省第三課  
第三課長

外務省

救恤費	雜件費	豫備費
七〇〇〇	七〇〇六〇〇〇	六四三六四〇〇〇
一五〇〇〇	一四三一三二〇	〇

(已號用紙)

外務省

警	教	警	准	筆	技	通	看	其
吏	員	吏	員	生	生	譯	護	他
吏	員	補	員	生	生	夫	人	備
一八	二五	四〇	二〇	三四 (内民政費支辨六)	五 (内民政費支辨三)	三	九	約五〇名

(已號用紙)

外務省

總額俸	給旅	費衣糧	費患者	費糧營	費補給及雜費
四八七五八四	二八〇二九六	五七七八〇	四八七二〇	六四〇八	一五八四〇
					七八五四〇

大正十年度民政部所要豫算額(臨時軍事費)

(已號用紙)

外務省

附屬書類添附

大正拾年拾月壹日 接受 管區署

第二課



拓殖第一五〇一號

大正十年十月一日

拓殖局長官 川村 竹治



外務次官 埴原 正直 殿

南洋廳特別會計豫算ニ關スル件

過般閣議決定相成候南洋群島ノ統治ニ關スル件（六月十日附海甲第一四號内閣書  
記官長通牒）ニ基キ大正十一年度南洋廳特別會計豫算案別紙ノ通計上條ニ就テハ  
右ニ對スル御意見至急御回示ヲ得度此段及照會候也

海軍務局

聯盟係

緊急

拓殖局

6-0008

0371



關稅關之限り現在三島  
三島内島内地方に於て  
とる

大正十一年度南洋廳特別會計豫算科目別概算表

款 項 目

經常部

南洋歳入

諸税

人頭税

關稅

官業及官有財産收入

郵便電信收入

政廳院收入

殖産收入

一、二、五四三

五七、三六〇

五六、三六〇

一、〇〇〇

五、九九五

二、六〇八

一、四四三

五、四三七

その他ノア  
海産

經常部合計

一、一、五四三

三、雜收入

田舎有物拂下代  
土地賃下料

一、免許及手数料

二、懲罰及没収金

三、雜收入

一、二、一二五

二、三七二

三、一八八

五、九六

一、三一三

一、二七九

臨時部

官業收入

海底電信收入

海底電信收入

七五、六〇四

六、四

六、四

款	歳入總計	臨時部合計	一般會計補充金	
			採礦所收入	補充金
歳出	目		一 採礦所下代	一 補充金
			七五〇、〇〇〇	四八、六、五六七
			七五〇、〇〇〇	四八、六、五六七
			四八、六、五六七	四八、六、五六七
			五、五七、七七一	五、五七、七七一
			五、六八、七一四	五、六八、七一四
南洋廳	經常部		三、五七、四、五三八	

一 俸給	二 事務費	三 旅費	四 修繕費	五 工場費	六 發電及排水費	七 作業費
一、七六、二〇〇	一、三〇、二六二	二四九、三三三	六八、六、一六五	六、一、二〇〇	一、二七、四四八	五、三、一五二
一、二、〇〇〇	二、六、九六〇	六、三、二四〇	一、二、六、九六二	五、〇、〇〇〇	五、三、一五二	八、七六、二〇〇



## 六 豫備金

 一 豫備金  
 二 豫備金

 六 賠償及訴訟費  
 七 諸拂戻及欠損補填金  
 八 行政執行費  
 九 官署財産管理費  
 十 病者及傷者療養費  
 十一 傷病及療養費  
 十二 精神科療養費  
 十三 漂流人諸費  
 十四 行旅病人及死亡人諸費

 一、〇〇〇  
 一、〇〇〇  
 二、〇〇〇  
 一、〇〇〇  
 三、〇〇〇  
 五、〇〇〇  
 一、〇〇〇  
 七、〇〇〇  
 一、〇〇〇

## 經常部合計

## 臨時部

## 一 事業費

一 事務費

 二 海底電信費  
 三 採礦費

 一 俸給  
 二 廳費  
 三 旅費  
 四 雜給及雜費  
 五 海底電信費  
 六 一人件費

 一、三九、一三六  
 一、三三、二〇四  
 五、一、八〇〇  
 八、五八八  
 二九、三八六  
 四三、四三〇  
 一、〇〇〇  
 一、〇〇〇  
 四一、四八七  
 七九、八四三

二、七、四、五三六

補助費	
補助費	
七、工場新設	九、七五〇
八、市場新設	一八、〇〇〇
九、航路標識新設	一五、〇〇〇
一〇、船舶購入費	九、〇〇〇
二、設備費	一〇、四八五
三、修繕費	六、五〇〇
一、航路補助	一、五二六、〇五〇
二、産業補助	一、二二〇、〇〇〇
三、救済事業補助	二五、〇〇〇
四、島民救済費補助	二八、〇〇〇
	二、三、〇五〇

土木費	
宮内省費	
一、物件費	三、四、六四四
二、道路港灣費	四、一八〇
三、産業補助費	二五、〇〇〇
四、土地開墾費	一、二、〇〇〇
五、墓地費	四、八〇〇
六、支庁新設	八、〇八、六三五
七、監獄新設	一、一、二〇〇
八、学校新設	三、七、〇〇〇
九、病院新設	一、三、四、四〇〇
一〇、産業試験場	七、三、〇〇〇
一、官舎新設	一、〇六、五〇〇
	一、二六、八〇〇

臨時部合計  
歳出總計

五、移民補助  
六、觀光團費補助

一、三、〇〇〇  
五、〇〇〇

二、九一五、一七六  
五、六八九、七一四

6-0008

0377



大正十一年度大藏省所管  
南洋廳特別會計歲入歲出豫定計算書

6-0008

0378

大正十年度本縣官署南洋廳特別會計  
歳入歳出計算書説明

大正十年度南洋廳特別會計於收入々々歳入  
豫定額ハ

經常部

一一九、七三九

臨時部

四三、六四、四

歳入豫定額合計

四四八、四三三

歳入經常部

第一款 南洋歳入

歳入豫定額ハ

一一九、七三九

ニテ今各項ニ就キ本年度豫定額算出基礎ヲ説明  
スレ左ノ如シ

第二項 租税

本年度豫定額ハ頭税ハ大正八年度平均收入額ヲ

本年度見込額ハ九萬九千九百九拾圓ヲ算出シ關稅  
ハ本年度新内地ト共通ノ關稅制度ニ布キ其見込額  
ハ九萬圓トシ合計ニ九萬九千九拾圓ヲ算定ス

第三項 官業及官有財産收入

本年度豫定額ハ郵便電信收入ハ大正八年度軍  
事取扱ニ基キ平均通數ニ多ク増加通數見込  
之相當料金ヲ課シ更ニ從來ノ實收額ヲ見込加算シ  
テ九萬參千七百六拾圓ヲ算出シ醫院收入ハ大正八  
年度平均收入額ニ其割ヲ加算シテ九萬圓大拾七  
圓ヲ算出シ官有物拂下代ハ大正十年度收入狀況ヲ  
參照シテ大正八年度平均額ニ割減額參照額  
拾圓ヲ算出シ土地賃料ハ大正八年度收入狀況ヲ參  
照シテ大正八年度平均額ニ割減額參照額拾圓  
ヲ算出シ合計ニ九萬八千九百九拾圓ヲ算定ス

第三項 雜收入

圓雜入於テハ八百參圓ヲ算出シ合計ニ九萬八千九百九拾圓ヲ  
算定ス

歳入臨時部

第一款 官業收入

歳入豫定額ハ

一、六四、六〇四

ニテ今各項ニ就キ本年度豫定額算出基礎ヲ説明シ  
左ノ如シ

第一項 採礦所收入

本年度豫定額ハ燐礦拂下代ハ九萬圓九千九拾圓  
六萬千圓ヲ拂下シルモノトシ計百六萬四千圓ヲ算定ス

第二項 海底電信收入

本年度豫定額ハ大正八年度平均取扱通數相當料  
金ヲ課シ六百四圓ヲ算定ス

第三款 補充金

本年度豫定額ハ

三三、〇〇〇

第二項 補充金

本年度豫定額ハ補充金ハ歳計不足ヲ補爲  
一般會計ヨリ補充受入ヲ要スルニ依リテ計上ス



大藏省所管南洋廳特別會計

科目	目	大正十年度豫定額	備考
歳入經常部			
第一款南洋歳入		一一九、七三二	
第貳組 税			
第壹頭 税		六一、四九五	
二 關 税		五九、四九五	
三 官業及官有財産收入		二、〇〇〇	
一 郵便電信收入		四八、五三三	
二 醫院收入		二二、七六八	
三 官有物拂下代		一〇、二六七	
四 土地貸下料		一二、一二五	
三 雜 收 入		二、三七二	
一 免許及手数料		九、七一二	
二 懲罰及沒收金		五九六	
三 雜 入		一、三一三	
歳入臨時部		七、八〇三	

第一款官業收入	一、六四六、四〇〇	
一 採礦所收入	一、〇六四、〇〇〇	
二 海底電信收入	一、〇六四、〇〇〇	
第二款補充金	三、三〇〇、〇〇〇	
一 補充金	三、三〇〇、〇〇〇	
臨時部合計	四、三六四、四〇〇	
歳入合計	四、四八四、三三三	

大正十年度大藏省所管南洋廳特別會計歳出豫定計算書  
歳出豫定計算書説明

大正十年度南洋廳特別會計歳出豫定計算書  
於算定所

經常部歳出額 二、四一八、三二七  
臨時部歳出額 二、〇六六、一六六

南洋廳特別會計制（大正十年度新）之設置  
以本年歳出豫定額之以前年度ノ金額對照  
ニ其増減理由ヲ説明スルヲ得ル依テ之總括シ豫  
定額中重要事項ヲ左掲ク

（一）採礦費

アガール島嶼礦採掘要ル經費ニシテ大正八、  
九年度定員續ニ鑑、四拾九萬六千九百九十五圓ヲ  
計ス

(二) 土木及營繕費

道路港灣新築及改修要ル經費並廳舎官  
舎産業試驗場學校醫院等、新築修繕及設

備要ル經費ニシテ四拾萬九千圓ヲ計ス  
(三) 獎勵及補助金

南洋群島定期航路對シ其費用補助要シ之者  
五萬圓計ス糖業椰子栽培業畜産業商業、  
及産業對シ其獎勵及費用補助ヲ要シ格  
五萬九千五百圓ヲ計ス  
以上

大藏省所管 南洋廳特別會計

科

歲出 經常部

第一款 南洋廳

一俸 給

一勅任俸 給

二委任俸 給

三判任俸 給

二事務費

一廳費及修繕費

二旅費

大正十年度豫定額

備

考

二、三一八、三三七  
〇七九、二七九二  
一、〇〇〇  
二二〇、八八〇  
五六〇、九一二  
〇九八、九四八九  
一七二、三一八  
一九八、一三四

三事業費

三雜給及雜費

一通信事業費

二醫院費

三産業試驗費

四工場費

五發電及製氷費

六船舶費

四教育費

一學校費

二生徒費

三雜費

五衛生費

一防疫費

二保健衛生費

六裁判及登記諸費

一裁判費

六一九、三七  
〇四七、七六八  
二五九、二四〇  
五〇、七九一  
四八、〇八七  
八二五  
四九、〇〇〇  
三六、四〇〇  
五一、九〇九  
一三、二〇〇  
三四、六一九  
四、九〇  
〇五、一〇〇  
三、三〇〇  
二、八〇〇  
五〇〇  
三〇〇

七監費		二登記諸費	二〇〇
八機密費		一在監人諸費	九三九四
九諸支出金		一機密費	八〇〇〇
		一退官賜金	一七三七五
		二死七賜金	七五〇〇
		三官吏以下療治料	六七五
		四巡査給助	五〇〇
		五退職及死給與金	三五〇
		六死傷手當	三八五〇
		七警察賞金	五〇〇
		八褒賞費	一〇〇
		九救恤費	三〇〇
		十行政處分執行費	一〇〇
		十一滞納處分費	一〇〇
		三賠償及訴訟費	一〇〇
		三諸捕房及檢補填金	一〇〇
		四監獄修繕費	一五〇〇
		五行路費及死人諸費	一〇〇
		六漂流人諸費	五〇〇
		七精神病有監置費	一〇〇
		八囚人刑事被拘人押送及留置人諸費	七〇〇
第二款豫備金		一〇〇〇〇〇	
第一款豫備金		三〇〇〇〇	
二第ニ豫備金		七〇〇〇〇	
經管部合計		二四一八三二七	
歳出臨時部			
第一款事業費		八三〇五二天	
一採礦費		四九八六九五	
二事務費		二三八八〇	
三事業費		三八五大大	
		四三六二大九	

歲出總計									三海底電信費	一俸給	二三八一九
									二事務費	九六八〇	
									三事業費	一三一三九	
								三土木及管繕費	一〇〇〇		
								一俸給	三〇八〇〇二		
								二事務費	四八四〇		
								三事業費	一三〇三九		
								第二款獎勵及補助費	二九〇一二三		
								一獎勵及補助費	一二三九五〇		
								一航路補助費	一二三九五〇		
							二產業獎勵費	一〇五〇〇〇			
							三教化事業補助費	一五一五〇			
							四島民改善獎勵費	二〇〇〇〇			
							五觀光團補助費	一〇〇〇〇			
	臨時部合計								二〇六六〇一六		
	歲出總計								四四八四三四三		

大正十一年度大藏省所管

南洋廳特別會計歲入歲出豫定計算書各目明細書

大正十一年十月十六日記録係接受

6-0008

0384

# 目次

[illegible]



[illegible]

2000

100  
101  
102  
103

[illegible][illegible]

24  
 25  
 26  
 27  
 28  
 29  
 30  
 31  
 32  
 33  
 34  
 35  
 36  
 37  
 38  
 39  
 40  
 41  
 42  
 43  
 44  
 45  
 46  
 47  
 48  
 49  
 50  
 51  
 52  
 53  
 54  
 55  
 56  
 57  
 58  
 59  
 60  
 61  
 62  
 63  
 64  
 65  
 66  
 67  
 68  
 69  
 70  
 71  
 72  
 73  
 74  
 75  
 76  
 77  
 78  
 79  
 80  
 81  
 82  
 83  
 84  
 85  
 86  
 87  
 88  
 89  
 90  
 91  
 92  
 93  
 94  
 95  
 96  
 97  
 98  
 99  
 100  
 101  
 102  
 103  
 104  
 105  
 106  
 107  
 108  
 109  
 110  
 111  
 112  
 113  
 114  
 115  
 116  
 117  
 118  
 119  
 120  
 121  
 122  
 123  
 124  
 125  
 126  
 127  
 128  
 129  
 130  
 131  
 132  
 133  
 134  
 135  
 136  
 137  
 138  
 139  
 140  
 141  
 142  
 143  
 144  
 145  
 146  
 147  
 148  
 149  
 150  
 151  
 152  
 153  
 154  
 155  
 156  
 157  
 158  
 159  
 160  
 161  
 162  
 163  
 164  
 165  
 166  
 167  
 168  
 169  
 170  
 171  
 172  
 173  
 174  
 175  
 176  
 177  
 178  
 179  
 180  
 181  
 182  
 183  
 184  
 185  
 186  
 187  
 188  
 189  
 190  
 191  
 192  
 193  
 194  
 195  
 196  
 197  
 198  
 199  
 200  
 201  
 202  
 203  
 204  
 205  
 206  
 207  
 208  
 209  
 210  
 211  
 212  
 213  
 214  
 215  
 216  
 217  
 218  
 219  
 220  
 221  
 222  
 223  
 224  
 225  
 226  
 227  
 228  
 229  
 230  
 231  
 232  
 233  
 234  
 235  
 236  
 237  
 238  
 239  
 240  
 241  
 242  
 243  
 244  
 245  
 246  
 247  
 248  
 249  
 250  
 251  
 252  
 253  
 254  
 255  
 256  
 257  
 258  
 259  
 260  
 261  
 262  
 263  
 264  
 265  
 266  
 267  
 268  
 269  
 270  
 271  
 272  
 273  
 274  
 275  
 276  
 277  
 278  
 279  
 280  
 281  
 282  
 283  
 284  
 285  
 286  
 287  
 288  
 289  
 290  
 291  
 292  
 293  
 294  
 295  
 296  
 297  
 298  
 299  
 300  
 301  
 302  
 303  
 304  
 305  
 306  
 307  
 308  
 309  
 310  
 311  
 312  
 313  
 314  
 315  
 316  
 317  
 318  
 319  
 320  
 321  
 322  
 323  
 324  
 325  
 326  
 327  
 328  
 329  
 330  
 331  
 332  
 333  
 334  
 335  
 336  
 337  
 338  
 339  
 340  
 341  
 342  
 343  
 344  
 345  
 346  
 347  
 348  
 349  
 350  
 351  
 352  
 353  
 354  
 355  
 356  
 357  
 358  
 359  
 360  
 361  
 362  
 363  
 364  
 365  
 366  
 367  
 368  
 369  
 370  
 371  
 372  
 373  
 374  
 375  
 376  
 377  
 378  
 379  
 380  
 381  
 382  
 383  
 384  
 385  
 386  
 387  
 388  
 389  
 390  
 391  
 392  
 393  
 394  
 395  
 396  
 397  
 398  
 399  
 400  
 401  
 402  
 403  
 404  
 405  
 406  
 407  
 408  
 409  
 410  
 411  
 412  
 413  
 414  
 415  
 416  
 417  
 418  
 419  
 420  
 421  
 422  
 423  
 424  
 425  
 426  
 427  
 428  
 429  
 430  
 431  
 432  
 433  
 434  
 435  
 436  
 437  
 438  
 439  
 440  
 441  
 442  
 443  
 444  
 445  
 446  
 447  
 448  
 449  
 450  
 451  
 452  
 453  
 454  
 455  
 456  
 457  
 458  
 459  
 460  
 461  
 462  
 463  
 464  
 465  
 466  
 467  
 468  
 469  
 470  
 471  
 472  
 473  
 474  
 475  
 476  
 477  
 478  
 479  
 480  
 481  
 482  
 483  
 484  
 485  
 486  
 487  
 488  
 489  
 490  
 491  
 492  
 493  
 494  
 495  
 496  
 497  
 498  
 499  
 500  
 501  
 502  
 503  
 504  
 505  
 506  
 507  
 508  
 509  
 510  
 511  
 512  
 513  
 514  
 515  
 516  
 517  
 518  
 519  
 520  
 521  
 522  
 523  
 524  
 525  
 526  
 527  
 528  
 529  
 530  
 531  
 532  
 533  
 534  
 535  
 536  
 537  
 538  
 539  
 540  
 541  
 542  
 543  
 544

[illegible][illegible]

100

100

10

[illegible]

0386

南洋廳歳入  
大正十一年度大蔵省報告

歳入經常部

第一款 南洋廳歳入

一一九、七三九<sup>四</sup>

第一項 租 税

六一、四九五

目	大正十一年度豫定額	大正八九年度平均額	備考
一 人頭税	五九、四九五 <sup>四</sup>	五九、四九五 <sup>四</sup>	
二 關稅	二、〇〇〇		

第二項 官業及官有財産收入

四八、五三二

一 郵便電信收入	二三、七六八	二三、七六八	
二 醫院收入	一〇、二六七	七八九八 平均額ノ三割増	
三 林業收入	一一、二二五	一五、一五七 平均額ノ二割減	
四 土地貸下料	二、三七二	二、七二六 平均額ノ二割減	

第三項 雑 收 入

九、七二二

一 免許及手数料	五九六	五九六	
----------	-----	-----	--

南洋廳歳入



二 懲罰及沒收金	一三三三	一三三三
三 雜入	七八〇三	七八〇三

第一項 官業收入  
一〇六四、六〇四

歳入臨時部

第一款 官業收入

第一項 探礦所收入

一 燐礦拂下代	一〇六四、〇〇〇	一〇六四、〇〇〇
---------	----------	----------

既往ノ實績ヲ參照シテ算出セリ

第二項 海底電信收入

六〇四

一 海底電信收入	六〇四	一通四〇錢	一、五〇九
----------	-----	-------	-------

官業收入

三

補充金	五	<div>一</div> <div>補</div> <div>充</div> <div>金</div> <div>三三〇〇〇〇〇</div>	<div>第二款 補充金</div> <div>三三〇〇〇〇〇</div> <div>第一項 補充金</div> <div>三三〇〇〇〇〇</div>	<div>〇</div> <div>〇</div> <div>〇</div> <div>〇</div> <div>〇</div> <div>〇</div>	<div>第一項 補充金</div> <div>三三〇〇〇〇〇</div> <div>第二項 補充金</div> <div>三三〇〇〇〇〇</div> <div>第三項 補充金</div> <div>三三〇〇〇〇〇</div>	<div>一</div> <div>〇</div> <div>〇</div> <div>〇</div> <div>〇</div> <div>〇</div>	<div>一</div> <div>〇</div> <div>〇</div> <div>〇</div> <div>〇</div> <div>〇</div>	補充金	四
-----	---	--	---	---	---	---	---	-----	---

6-0008

0389

歳出經常部  
第一款 南洋廳  
第一項 俸給  
二二三六〇三七  
七八二三五二

目	大正十一年度豫定額
一 勅任俸給	一、〇〇〇、〇〇〇

區別	員數	單位費額	金額
本區長	一	五五〇〇	五五〇〇
加長	一	五五〇〇	五五〇〇
本俸ノ十割			五五〇〇

二 奏任俸給	二二〇、八八〇
--------	---------

本區事務官俸	員數	單位費額	金額
本區事務官	三	三四六〇	一〇三、八四〇
判事	四	三四六〇	一三八、四四〇
檢事	一	三四六〇	三四六〇
技師	七	三四六〇	二四二、二二〇

南洋廳

七

南洋廳

九

一 備 品 費		二 圖書及印刷費		三 筆紙墨文具	
器 具	機 械	圖 書	印 刷	其 他	其 他
一六四〇〇	四一〇〇	二八〇四八	二〇九七二	一四九六六	六〇〇六
二〇五〇〇		二八〇四八		二〇九七二	

第二項 事務費

九九八六三九

加	警 部 補	通 信 書 記 補	八	七二〇	五七六〇
二〇	七二〇	七二〇	七二〇	七二〇	七二〇
本俸ノ十二割	二九九七二				

訓 導	藥 劑	醫 員	技 手	通 信 書 記	警 部	屬	本 俸
五二	七	一五	三三	四三	六	八	二三八
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
五二〇〇〇	七七〇〇	一六五〇〇	三六三〇〇	四七三〇〇	六六〇〇〇	八八〇〇〇	二四九七六〇

三 判 任 俸 給		五 四 九 四 七 二			
加	藥 劑	通 信 事 務 官	警 視 官	理 事 官	醫 官
一	一	一	一	七	九
本俸ノ十割	二、七四〇	二、七四〇	二、七四〇	二、七四〇	三、四六〇
二〇、四四〇	二、七四〇	二、七四〇	二、七四〇	一、九三八〇	三、二一四〇

八

南洋廳

一〇

四	消	耗	品	二八二八五
---	---	---	---	-------

薪	炭	一五二四五
其	他	一三〇四〇

五	通	信	運	搬	費	一三、五二三
---	---	---	---	---	---	--------

通	信	費	一七、六二三
運	搬	費	四、八九〇

六	各	所	修	繕	費	五、一〇〇
---	---	---	---	---	---	-------

應	合	官	舍	修	繕	費	五、二〇〇
---	---	---	---	---	---	---	-------

七	旅	費	一九八、二三四
---	---	---	---------

內	國	旅	費	一九三、二三四
外	國	旅	費	四、九一〇

八	巡	査	俸	給	八六、三〇〇
---	---	---	---	---	--------

本	巡	査	俸	六五	六〇〇	三九、〇〇〇
加			俸			四七、三〇〇
在	勤	加	俸	本俸ノ十二割		四六、八〇〇
精	勤	及	功	勞	加	俸
				一〇	五〇	五〇〇

九	給	與	九六、六九六
---	---	---	--------

賜	託	員	手	當	一、二〇〇	一、二〇〇
勤	勉	手	當	一、四六	一、四六	一、四六
僻	阪	地	手	當	三七	三七
舍	監	手	當	七	七	七
巡	査	特	別	手	當	一〇
夜	勤	賭	料	延	一、四八	一、四八
非	番	勤	務	手	當	〇、五〇
警	察	監	獄	賞	與	二、五〇
宿	直	賭	料	延	一、九〇	一、九〇
村	長	手	當	五二	五二	五二

南洋廳

一一

6-0008

0392

官吏以下慰勞金

一〇雇員給

二四七〇四〇

事	技	通	船	機	艇	機	鐵	木	土	醫	產	磨
務員	術員	信手	長	長	長	手	工	工	譯	手	婆	工
八四	三五	一五	一	一	七	一三	二	一	八	九	三	一
一〇〇八〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇
一〇〇八〇〇	四二〇〇〇〇	一八〇〇〇〇	一四〇〇〇〇	一四〇〇〇〇	八四〇〇〇〇	一五六〇〇〇	二四〇〇〇〇	一四〇〇〇〇	八〇〇〇〇〇	一〇八〇〇〇	三〇〇〇〇〇	一四〇〇〇〇

巡	助
警	員
土	土
五〇	一八
四八〇	四八〇
二四〇〇〇	八六四〇

二〇備人料

一六五、五七四

小	給	電	大	鍛	測	守	廷	機	火	電	水	看
使	仕	夫	工	工	夫	衛	丁	夫	夫	工	夫	婦
内三二	内一七							内九	内八		内五	
六四	三三	一一	八	六	二	一	一	二八	一六	一五	一〇	一六
九〇〇	三五〇	二五〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	三六〇	九〇〇	三六〇	九〇〇
四〇三二〇	一三三五〇	九〇〇〇	七二〇〇	五四〇〇	二八〇〇	九〇〇	九〇〇	一〇〇八〇	一〇〇八〇	一三五〇〇	六三〇〇	一四四〇〇

南洋廳

一三

洗	濯	夫	二	九〇〇	二八〇〇
賭	夫	二	九〇〇	二八〇〇	
農	夫	一七	九〇〇	一五三〇〇	
交	換	手	五五〇	一二〇〇	
雜	役	夫	一〇、一八四	一〇、一八四	

一四

二三被服費 二、〇一〇

警部補巡查被服	七五	一七二	一二、九〇〇
現業員及賭夫被服	三二	四四	一、九三六
小使、給仕、守衛、廷丁被服	三六	二二	二、一七八
巡警被服	五〇	七二	三六〇〇
助教員被服	一八	三三	三九六

一三雜費 一、五六七

東京出張所廳舎等借入料			五、七六〇
接待及宴會費			二〇〇〇

諸謝費			一〇〇
翻譯及寫字料			一、〇〇〇
廣告及手數料			八〇〇
揭示標柱費			三〇〇
官有財産管理費			一、〇〇〇
其他			六〇七

第三項事業費 四四七七六八

一通信事業費 二五五、二四〇

郵便費			八五二八
現業用品費			七三二八
運搬費			四〇〇
雜費			八〇〇
無線電信費			二四六、七二
器具機械費			一八九、二五
現業用品費			四七、三五

南洋廳

一五

四 工 作 場 費		八、二五〇		一、五〇〇	
器 具 機 械 費					
雜 費	費				二六四
運 搬 費	費				五〇〇
講 習 會 費	費				六、一二八
雜 費	費				六、八九二
人 夫 賃	延	二九〇		一四	二九〇
消 耗 品					三〇〇
器 具 機 械 費					六〇〇
人 家 畜 及 飼 料 費	費				一、八八七
畜 產 試 驗 費	費				二〇〇、六八
人 夫 賃	延	四〇〇		一四	四〇〇
消 耗 品					一四〇〇
器 具 機 械 費					一、六〇〇
種 苗 及 肥 料 費	費				一、九〇〇
林 業 試 驗 費	費				五、三〇〇

二 醫 院 費		五〇、七九一		三、一七五	
運 搬 費	費				七〇、九七
雜 費	費				三、一七五
患 者 費	費				四、二〇〇
醫 療 機 械 費	費				一七、五〇〇
藥 劑 費	費				三、四〇〇
脂 肪 費	費				五〇、五八
運 搬 費	費				七〇〇
雜 費	費				九三三
三 產 業 試 驗 費		四八、〇八七		一、五八二	
農 事 試 驗 費	費				一、五八二
種 苗 及 肥 料 費	費				六、五三一
器 具 機 械 費	費				三、四一六
消 耗 品	費				一、〇〇〇
人 夫 賃	延	四、八八〇		一四	四、八八〇



0396

6-0008

南洋廳		一八	
三 雜費		四九〇〇〇	
舉式運動會及講習費		二二	
		一〇〇	
		二二〇〇〇	
		一九	
四		二二五〇	
雜費		二五〇	
運搬費		七五〇	
消耗品費		三五〇〇	
五 發電及製氷費		四九〇〇〇	
器具機械費		三〇〇〇	
材料費		二三四〇	
消耗品費		三二五三〇	
運搬費		一〇五四二	
人夫賃		一〇〇〇	
雜費		五八八	
六 船舶費		三六四〇〇	
器具機械費		一三〇〇	
消耗品費		一九六五八	
修繕費		一〇〇〇	
運搬費		一三九四二	
雜費		五〇〇	
第四項 教育費		五一九〇九	
一 學校費		一三二〇〇	
備品費		四〇〇	
消耗品費		四四〇〇	
二 生徒費		三四六一九	
食糧費		三八〇	
被服費		三八〇	
學用品費		二五〇〇	
實習費		二五〇〇	
三 雜費		四〇九〇	
舉式運動會及講習費		二二	
		一〇〇	
		二二〇〇〇	
		一九	
四		二二五〇	
雜費		二五〇	
運搬費		七五〇	
消耗品費		三五〇〇	
五 發電及製氷費		四九〇〇〇	
器具機械費		三〇〇〇	
材料費		二三四〇	
消耗品費		三二五三〇	
運搬費		一〇五四二	
人夫賃		一〇〇〇	
雜費		五八八	
六 船舶費		三六四〇〇	
器具機械費		一三〇〇	
消耗品費		一九六五八	
修繕費		一〇〇〇	
運搬費		一三九四二	
雜費		五〇〇	
第四項 教育費		五一九〇九	
一 學校費		一三二〇〇	
備品費		四〇〇	
消耗品費		四四〇〇	
二 生徒費		三四六一九	
食糧費		三八〇	
被服費		三八〇	
學用品費		二五〇〇	
實習費		二五〇〇	
三 雜費		四〇九〇	
舉式運動會及講習費		二二	
		一〇〇	
		二二〇〇〇	
		一九	
四		二二五〇	
雜費		二五〇	
運搬費		七五〇	
消耗品費		三五〇〇	
五 發電及製氷費		四九〇〇〇	
器具機械費		三〇〇〇	
材料費		二三四〇	
消耗品費		三二五三〇	
運搬費		一〇五四二	
人夫賃		一〇〇〇	
雜費		五八八	
六 船舶費		三六四〇〇	
器具機械費		一三〇〇	
消耗品費		一九六五八	
修繕費		一〇〇〇	
運搬費		一三九四二	
雜費		五〇〇	
第四項 教育費		五一九〇九	
一 學校費		一三二〇〇	
備品費		四〇〇	
消耗品費		四四〇〇	
二 生徒費		三四六一九	
食糧費		三八〇	
被服費		三八〇	
學用品費		二五〇〇	
實習費		二五〇〇	
三 雜費		四〇九〇	
舉式運動會及講習費		二二	
		一〇〇	
		二二〇〇〇	
		一九	
四		二二五〇	
雜費		二五〇	
運搬費		七五〇	
消耗品費		三五〇〇	
五 發電及製氷費		四九〇〇〇	
器具機械費		三〇〇〇	
材料費		二三四〇	
消耗品費		三二五三〇	
運搬費		一〇五四二	
人夫賃		一〇〇〇	
雜費		五八八	
六 船舶費		三六四〇〇	
器具機械費		一三〇〇	
消耗品費		一九六五八	
修繕費		一〇〇〇	
運搬費		一三九四二	
雜費		五〇〇	
第四項 教育費		五一九〇九	
一 學校費		一三二〇〇	
備品費		四〇〇	
消耗品費		四四〇〇	
二 生徒費		三四六一九	
食糧費		三八〇	
被服費		三八〇	
學用品費		二五〇〇	
實習費		二五〇〇	
三 雜費		四〇九〇	
舉式運動會及講習費		二二	
		一〇〇	
		二二〇〇〇	
		一九	
四		二二五〇	
雜費		二五〇	
運搬費		七五〇	
消耗品費		三五〇〇	
五 發電及製氷費		四九〇〇〇	
器具機械費		三〇〇〇	
材料費		二三四〇	
消耗品費		三二五三〇	
運搬費		一〇五四二	
人夫賃		一〇〇〇	
雜費		五八八	
六 船舶費		三六四〇〇	
器具機械費		一三〇〇	
消耗品費		一九六五八	
修繕費		一〇〇〇	
運搬費		一三九四二	
雜費		五〇〇	
第四項 教育費		五一九〇九	
一 學校費		一三二〇〇	
備品費		四〇〇	
消耗品費		四四〇〇	
二 生徒費		三四六一九	
食糧費		三八〇	
被服費		三八〇	
學用品費		二五〇〇	
實習費		二五〇〇	
三 雜費		四〇九〇	
舉式運動會及講習費		二二	
		一〇〇	
		二二〇〇〇	
		一九	
四		二二五〇	
雜費		二五〇	
運搬費		七五〇	
消耗品費		三五〇〇	
五 發電及製氷費		四九〇〇〇	
器具機械費		三〇〇〇	
材料費		二三四〇	
消耗品費		三二五三〇	
運搬費		一〇五四二	
人夫賃		一〇〇〇	
雜費		五八八	
六 船舶費		三六四〇〇	
器具機械費		一三〇〇	
消耗品費		一九六五八	
修繕費		一〇〇〇	
運搬費		一三九四二	
雜費		五〇〇	
第四項 教育費		五一九〇九	
一 學校費		一三二〇〇	
備品費		四〇〇	
消耗品費		四四〇〇	
二 生徒費		三四六一九	
食糧費		三八〇	
被服費		三八〇	
學用品費		二五〇〇	
實習費		二五〇〇	
三 雜費		四〇九〇	
舉式運動會及講習費		二二	
		一〇〇	
		二二〇〇〇	
		一九	
四		二二五〇	
雜費		二五〇	
運搬費		七五〇	
消耗品費		三五〇〇	
五 發電及製氷費		四九〇〇〇	
器具機械費		三〇〇〇	
材料費		二三四〇	
消耗品費		三二五三〇	
運搬費		一〇五四二	
人夫賃		一〇〇〇	
雜費		五八八	
六 船舶費		三六四〇〇	
器具機械費		一三〇〇	
消耗品費		一九六五八	
修繕費		一〇〇〇	
運搬費		一三九四二	
雜費		五〇〇	
第四項 教育費		五一九〇九	
一 學校費		一三二〇〇	

運搬費	三三	三〇	六六〇
雑費	三三	一三三〇	

二〇

第五項 衛生費 五、一〇〇

一 防疫費	一、三〇〇
-------	-------

傳染病豫防其他防疫諸費	一、八〇〇
海港檢疫費	五〇〇

二 保健衛生費	二、八〇〇
---------	-------

保健衛生費	二、八〇〇
地方病調査研究費	二、〇〇〇

第六項 裁判及登記諸費 五〇〇

一 裁判費	三〇〇
二 登記諸費	二〇〇

第七項 監獄費 五、三九四

一 在監人諸費	五、三九四
---------	-------

食糧費	七	四一九七五	二、九三八
被服費	二八	五四	一四〇
運搬費			五六六
雜費			一、七五〇

第八項 機密費 八、〇〇〇

一 機密費	八、〇〇〇
-------	-------

第九項 諸支出金 一七、三七五

一 退官賜金	七、五〇〇
二 死亡賜金	六、七五
三 官吏以下療治料	五〇〇
四 巡査給助	三、三五〇

南洋廳

二一

五	退職及死亡給與金	三八五〇
六	死傷手当	五〇〇
七	警察賞與	一〇〇
八	褒賞費	三〇〇
九	救恤費	三〇〇
一〇	行政處分強制費	一〇〇
一一	滞納處分費	一〇〇
一二	賠償金	一〇〇
一三	訴訟費	一〇〇
一四	諸拂戻及缺損補填金	一〇〇
一五	害蟲驅除豫防費	一五〇〇
一六	救助費	六〇〇
一七	囚人及刑事被告人押送及留置人諸費	七〇〇

第二款 豫備金

第一項 第一豫備金

一〇〇,〇〇〇 圓

第二項 第二豫備金

七〇,〇〇〇

豫備金

歳出臨時部			
第一款 事業費			
第一項 探 費			
大正十一年度豫定額			
一	奏任	俸給	六九〇
二	判任	俸給	一六、九四〇
三	加	本	區
四	技	師	別
五	本	俸	員
六	加	俸	數
七	本	俸	單位費額
八	加	俸	金
九	本	俸	額
一〇	加	俸	額
一一	本	俸	額
一二	加	俸	額
一三	本	俸	額
一四	加	俸	額
一五	本	俸	額
一六	加	俸	額
一七	本	俸	額
一八	加	俸	額
一九	本	俸	額
二〇	加	俸	額
二一	本	俸	額
二二	加	俸	額
二三	本	俸	額
二四	加	俸	額
二五	本	俸	額
二六	加	俸	額
二七	本	俸	額
二八	加	俸	額
二九	本	俸	額
三〇	加	俸	額
三一	本	俸	額
三二	加	俸	額
三三	本	俸	額
三四	加	俸	額
三五	本	俸	額
三六	加	俸	額
三七	本	俸	額
三八	加	俸	額
三九	本	俸	額
四〇	加	俸	額
四一	本	俸	額
四二	加	俸	額
四三	本	俸	額
四四	加	俸	額
四五	本	俸	額
四六	加	俸	額
四七	本	俸	額
四八	加	俸	額
四九	本	俸	額
五〇	加	俸	額
五一	本	俸	額
五二	加	俸	額
五三	本	俸	額
五四	加	俸	額
五五	本	俸	額
五六	加	俸	額
五七	本	俸	額
五八	加	俸	額
五九	本	俸	額
六〇	加	俸	額
六一	本	俸	額
六二	加	俸	額
六三	本	俸	額
六四	加	俸	額
六五	本	俸	額
六六	加	俸	額
六七	本	俸	額
六八	加	俸	額
六九	本	俸	額
七〇	加	俸	額
七一	本	俸	額
七二	加	俸	額
七三	本	俸	額
七四	加	俸	額
七五	本	俸	額
七六	加	俸	額
七七	本	俸	額
七八	加	俸	額
七九	本	俸	額
八〇	加	俸	額
八一	本	俸	額
八二	加	俸	額
八三	本	俸	額
八四	加	俸	額
八五	本	俸	額
八六	加	俸	額
八七	本	俸	額
八八	加	俸	額
八九	本	俸	額
九〇	加	俸	額
九一	本	俸	額
九二	加	俸	額
九三	本	俸	額
九四	加	俸	額
九五	本	俸	額
九六	加	俸	額
九七	本	俸	額
九八	加	俸	額
九九	本	俸	額
一〇〇	加	俸	額

三 事 務 費 三、八五六六

廳	備品費	圖書及印刷費	筆・紙・墨・文具	消耗品	通信運搬費	旅給及雜費	雇員給	傭託員手當	勤勉手当	被服及賄料	雜費
							内二八 土一	一三	一四四		
三、二六〇	五〇〇	一、〇〇〇	五〇〇	四〇〇	八六〇	七六六二	二七、六四四	八、四〇〇	二、四〇〇	一、三九〇	五七四

四 事 業 費 四、三六、二六九

器具機械費	材料費	燃料費	食糧費	職工人夫費	運搬費	雜費
四、四八三六	五、四六九五	一、二一九五四	四、六四一七	七、九八四三	八、八〇二四	五〇〇

第二項 海底電信費 一三、三八一九

本俸	通信書記	技手	加俸
四、四〇〇	三、三〇〇	一、一〇〇	五、二八〇
			本俸ノ十二割

二 事 務 費 一三、一三九

事業費 二七

事業費

應	備	圖書及印刷費	筆紙墨文具	消耗品
三、一〇九	二、一六〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇

二九

二 事務費

一五、三三九

本	技	加
俸	手	俸
二、一〇〇	一、一〇〇	本俸ノ十二割 二、六四〇

一 判任俸給

四、八四〇

第三項 土木及營繕費

三二〇、二九二

運搬費	雜費
一、〇〇〇	一、〇〇〇

三 事業費

一、〇〇〇

現業用品費

八〇〇

應	備	圖書及印刷費	筆紙墨文具	消耗品	通信運搬費	旅	雜給及雜費	雇員給	傭人料	勤勉手当	被服及賄料	雜費
二、一五〇	六、〇〇〇	五、〇〇〇	二、〇〇〇	六、〇〇〇	二、五〇〇	四、九〇〇	六、〇八九	二、四〇〇	九、〇〇〇	三、六〇〇	二、九二〇	二、八二二

三八

事業費

港海入費	二〇〇〇	一	二五〇〇
道路入費	一九〇〇	一	二五〇〇
道路入費	二一〇〇	一	二五〇〇
屠場新増費	二〇〇〇	一	二五〇〇
火葬場新増費	六〇〇〇	一	二五〇〇
雇員及傭人官舎新増費	一五、六〇〇	一	二五〇〇
高等官及 列任官官舎新増費	一七、七〇〇	一	二五〇〇
官舎新増費	三三、三〇〇	一	二五〇〇
林業用地費	八〇〇	一	二五〇〇
農耕用地費	三五〇	一	二五〇〇
同用地費	四三〇〇	一	二五〇〇
産業試験場新増費	四四、九〇〇	一	二五〇〇
産業試験場新増費	四九、二〇〇	一	二五〇〇
バラオ醫院増築	四五〇	一	二五〇〇
サイバン醫院増築	四五〇	一	二五〇〇
サッブ島公學校新増費	二五〇〇	一	二五〇〇

學 校 新 營	二五、〇〇〇	一	二五〇〇
アンダウル出張所増築	五〇〇	一	二五〇〇
ヤルトリ支廳増築	七五〇	一	二五〇〇
ポナベ支廳増築	七五〇	一	二五〇〇
トラック支廳増築	一〇〇〇	一	二五〇〇
バラオ支廳増築	二五〇	一	二五〇〇
サイバン支廳増築	二五〇〇	一	二五〇〇
支 廳 新 營	八八〇〇	一	二五〇〇

三  
事

業  
費

二九〇、一三三

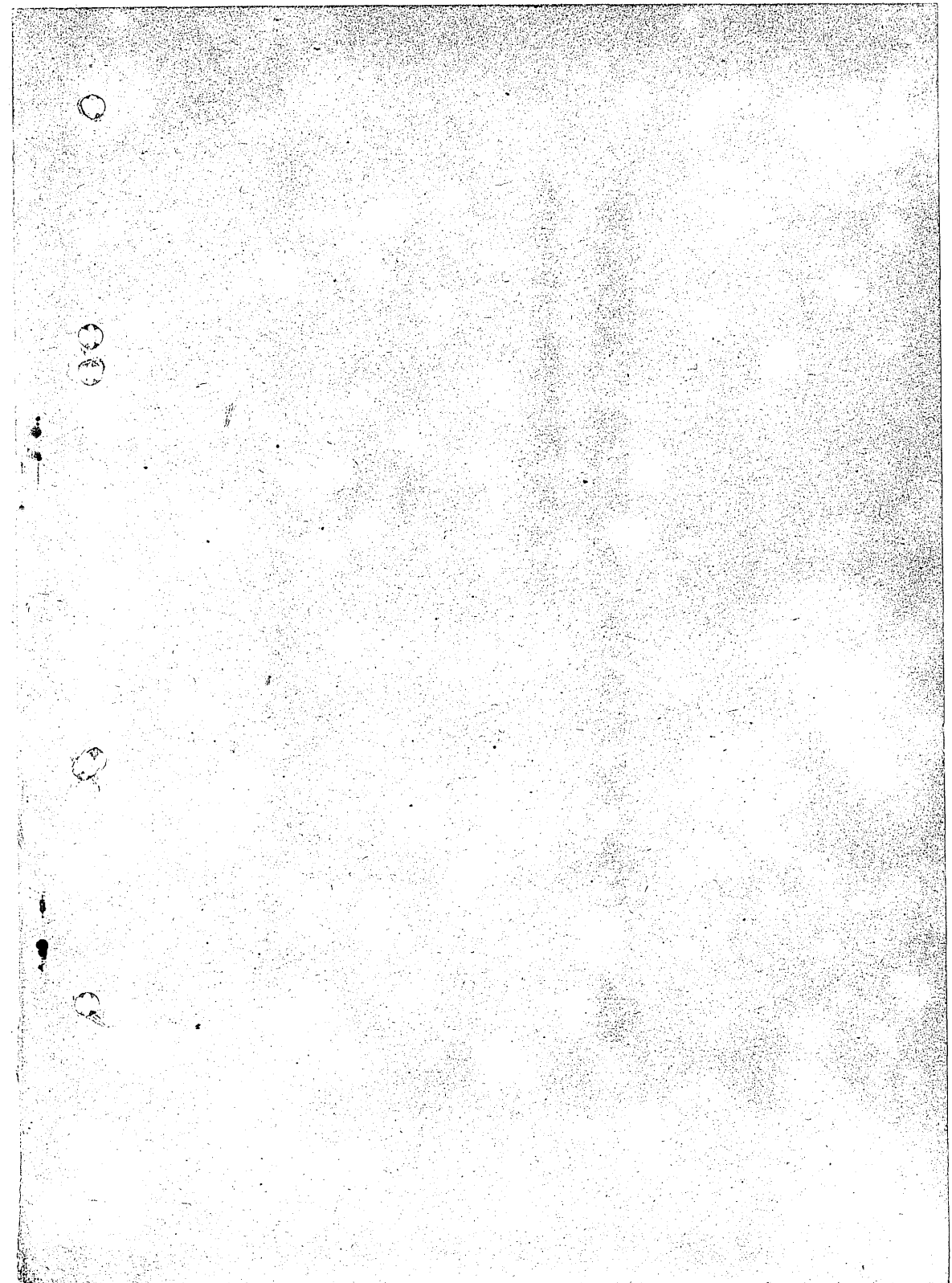
通 信 運 搬 費	四四九	一	二五〇〇
旅 給 費	五、三三〇	一	二五〇〇
雜 給 及 雜 費	六、五九〇	一	二五〇〇
雇 員 給 料	三、〇〇〇	一	二五〇〇
備 人 料	九〇〇	一	二五〇〇
被 服 及 賄 料	一九〇	一	二五〇〇
雜 費	一〇〇	一	二五〇〇







職 業 獎 勵 金		三 次	
部 落 改 善 獎 勵 金		五,000	
一	...	...	...
二	...	...	...
三	...	...	...
四	...	...	...
五	...	...	...
六	...	...	...
七	...	...	...
八	...	...	...
九	...	...	...
十	...	...	...
十一	...	...	...
十二	...	...	...
十三	...	...	...
十四	...	...	...
十五	...	...	...
十六	...	...	...
十七	...	...	...
十八	...	...	...
十九	...	...	...
二十	...	...	...
二十一	...	...	...
二十二	...	...	...
二十三	...	...	...
二十四	...	...	...
二十五	...	...	...
二十六	...	...	...
二十七	...	...	...
二十八	...	...	...
二十九	...	...	...
三十	...	...	...
三十一	...	...	...
三十二	...	...	...
三十三	...	...	...
三十四	...	...	...
三十五	...	...	...
三十六	...	...	...
三十七	...	...	...
三十八	...	...	...
三十九	...	...	...
四十	...	...	...
四十一	...	...	...
四十二	...	...	...
四十三	...	...	...
四十四	...	...	...
四十五	...	...	...
四十六	...	...	...
四十七	...	...	...
四十八	...	...	...
四十九	...	...	...
五十	...	...	...
五十一	...	...	...
五十二	...	...	...
五十三	...	...	...
五十四	...	...	...
五十五	...	...	...
五十六	...	...	...
五十七	...	...	...
五十八	...	...	...
五十九	...	...	...
六十	...	...	...
六十一	...	...	...
六十二	...	...	...
六十三	...	...	...
六十四	...	...	...
六十五	...	...	...
六十六	...	...	...
六十七	...	...	...
六十八	...	...	...
六十九	...	...	...
七十	...	...	...
七十一	...	...	...
七十二	...	...	...
七十三	...	...	...
七十四	...	...	...
七十五	...	...	...
七十六	...	...	...
七十七	...	...	...
七十八	...	...	...
七十九	...	...	...
八十	...	...	...
八十一	...	...	...
八十二	...	...	...
八十三	...	...	...
八十四	...	...	...
八十五	...	...	...
八十六	...	...	...
八十七	...	...	...
八十八	...	...	...
八十九	...	...	...
九十	...	...	...
九十一	...	...	...
九十二	...	...	...
九十三	...	...	...
九十四	...	...	...
九十五	...	...	...
九十六	...	...	...
九十七	...	...	...
九十八	...	...	...
九十九	...	...	...
一百	...	...	...



6-0008

0405